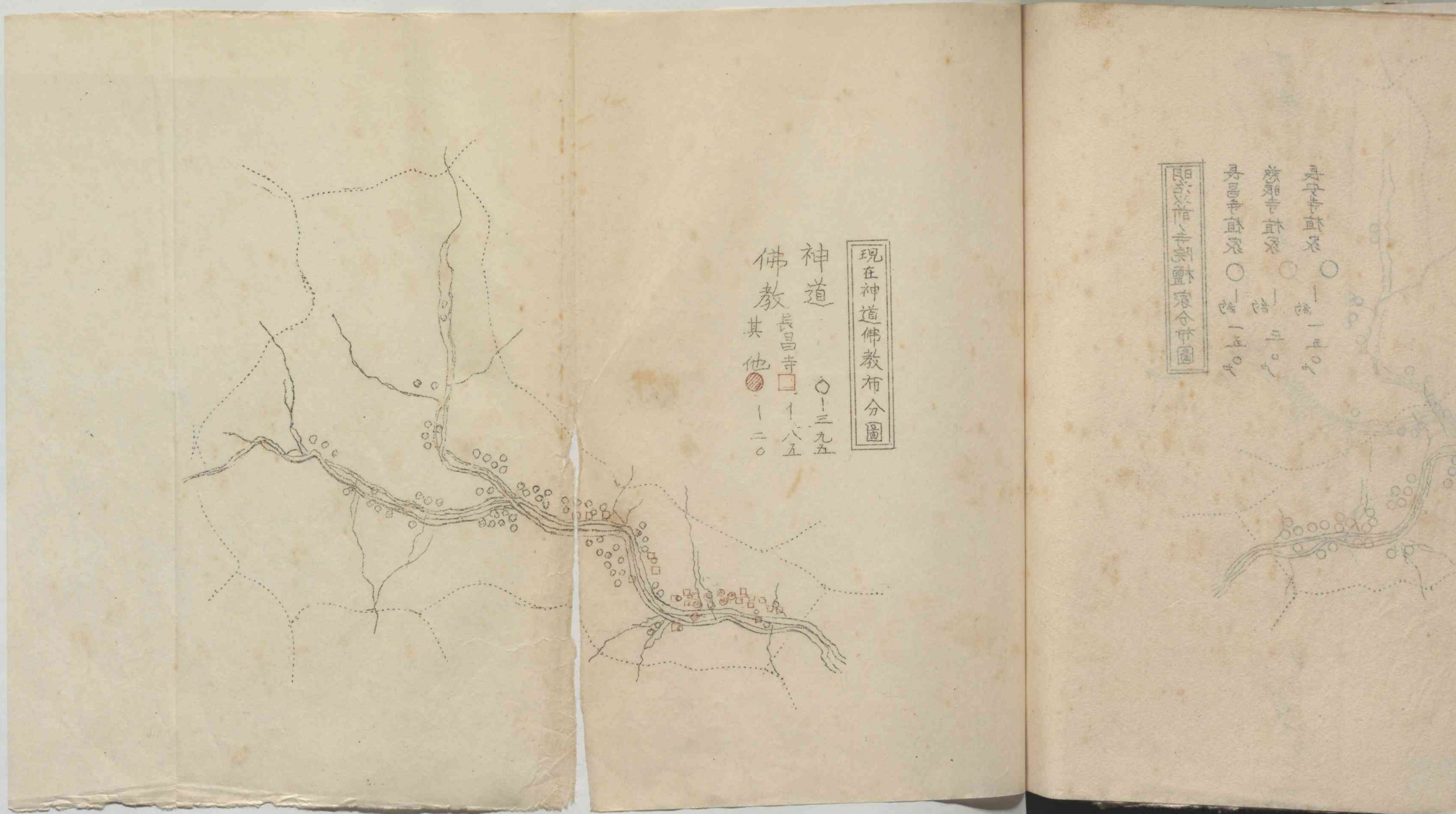
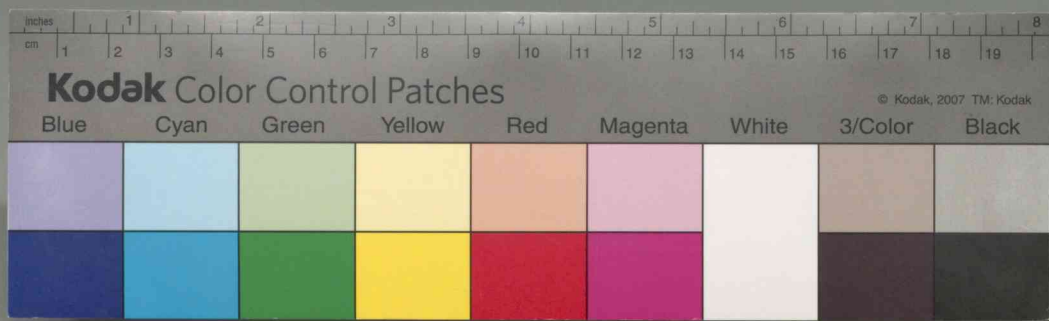
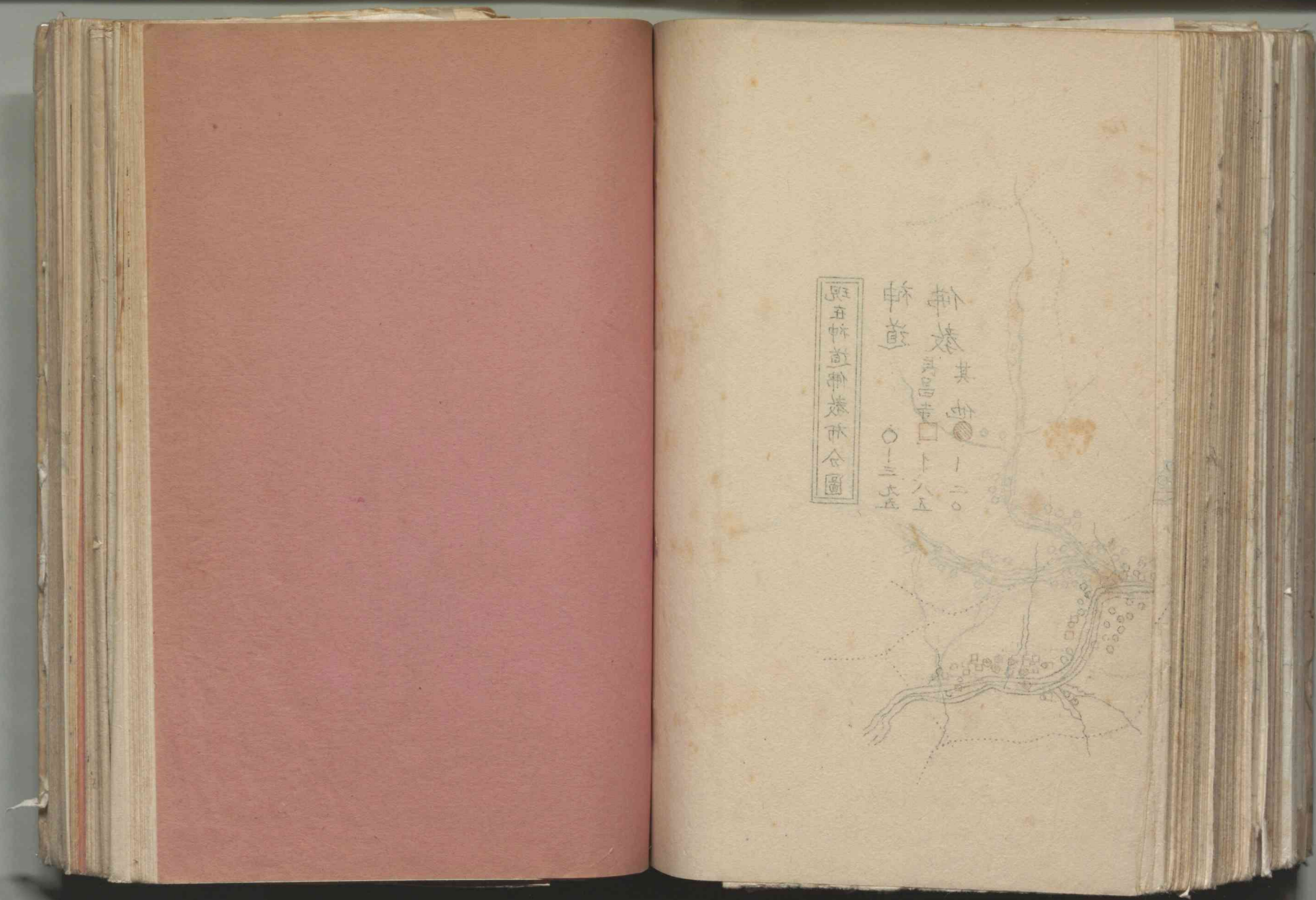
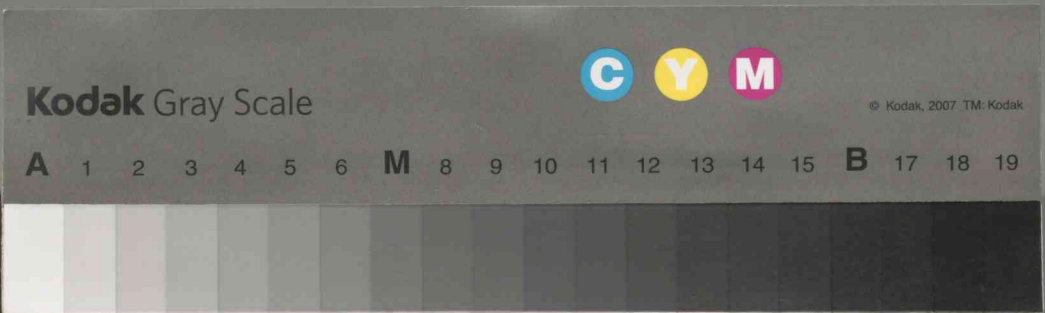


西大芦地区
寺田町
寺田町
寺田町
寺田町





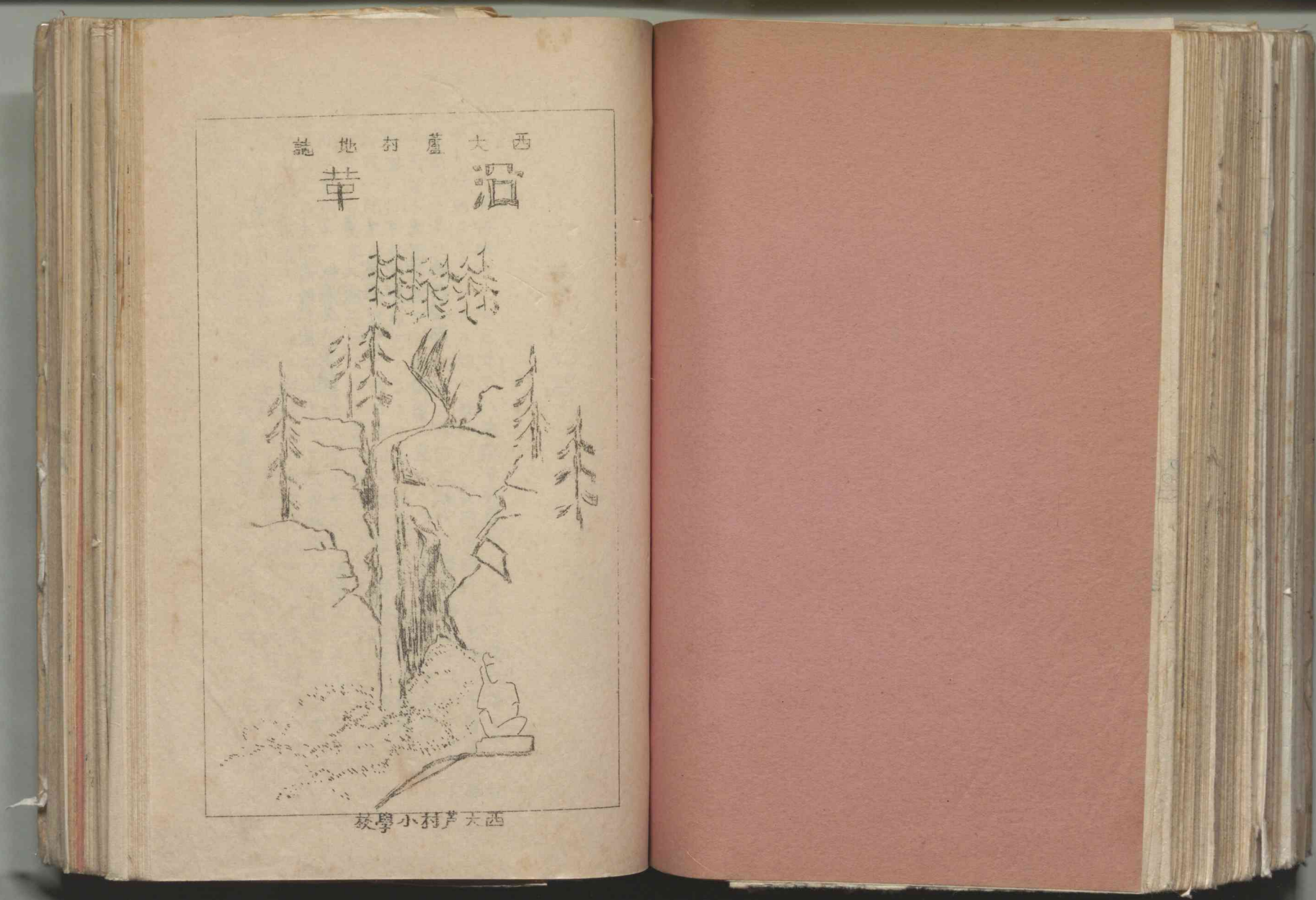
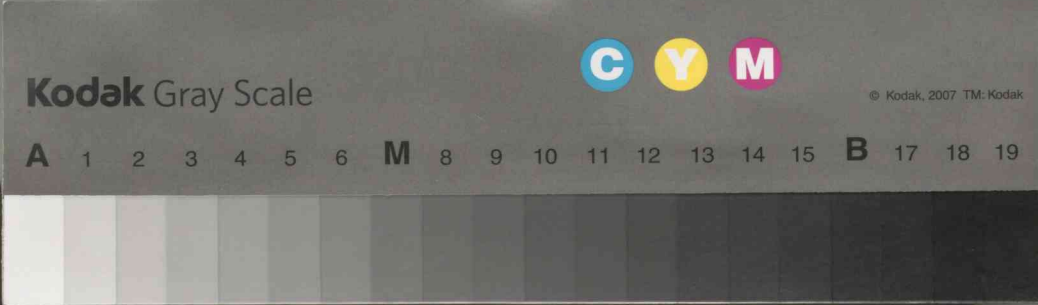


西大芦道柳森林合圖

柳森
其
昌
一
三
六

492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料





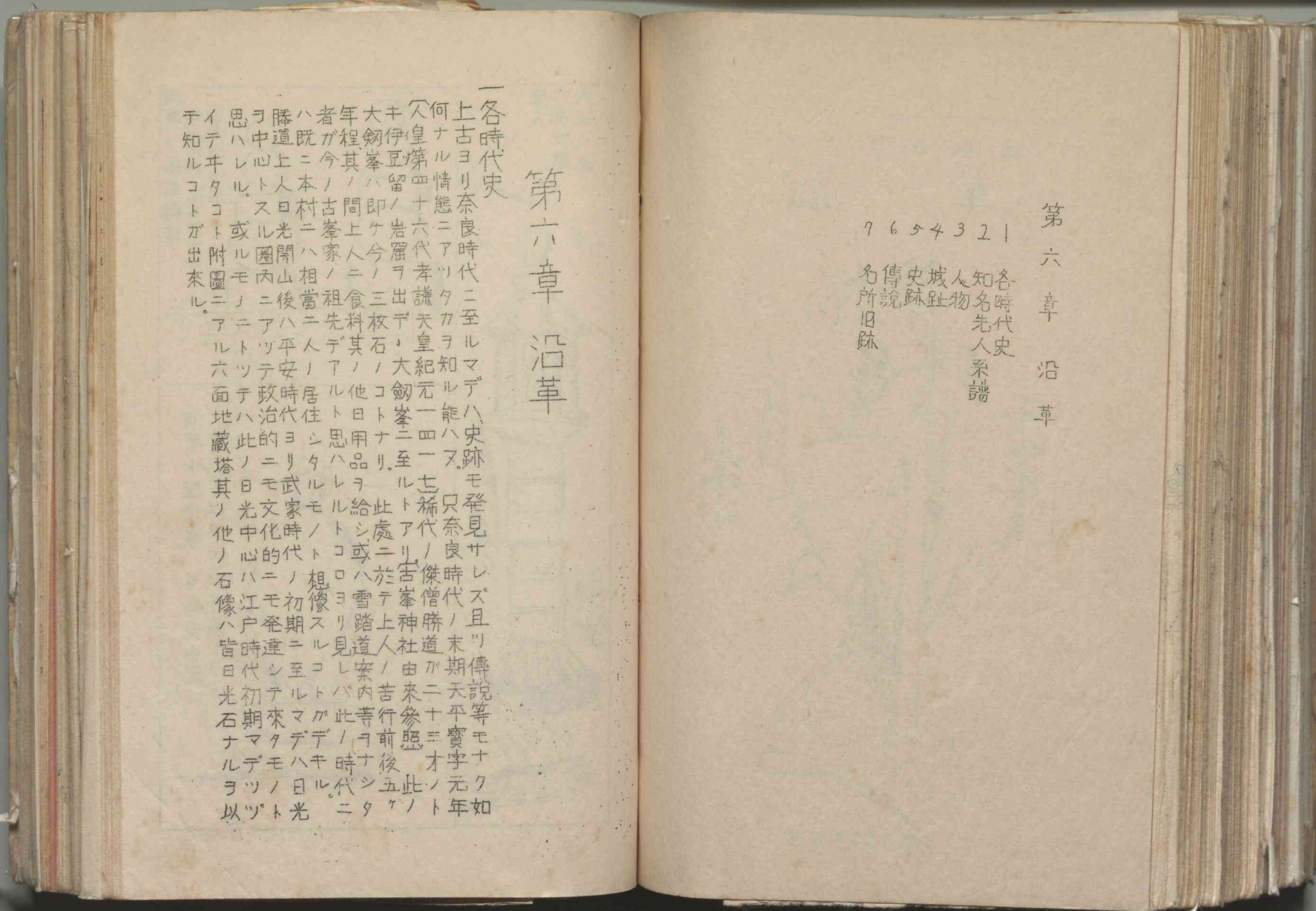
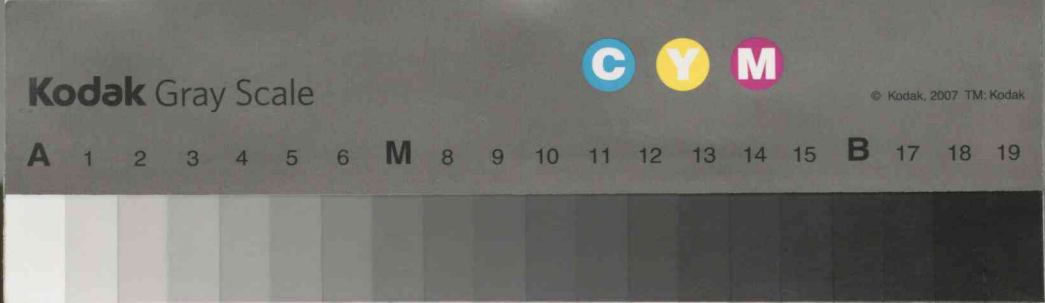
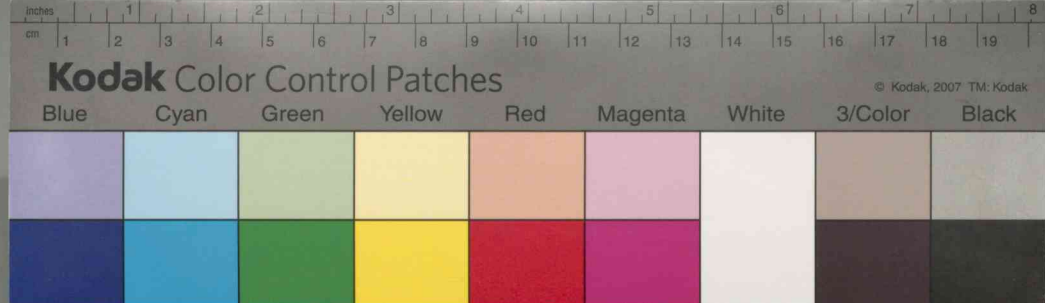
西大芦地区
沿 革



西大芦小学校

492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料





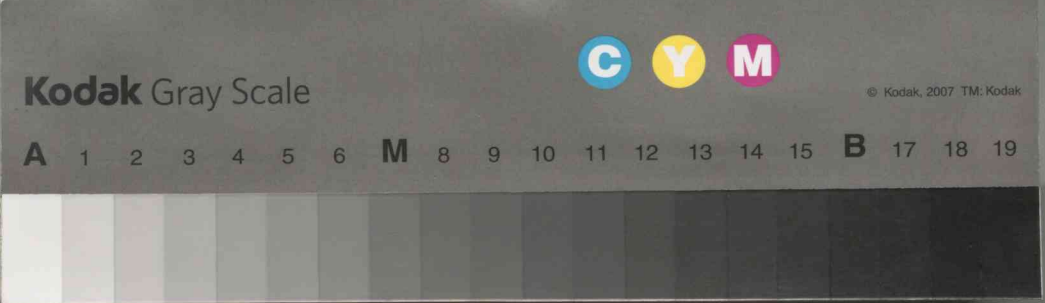
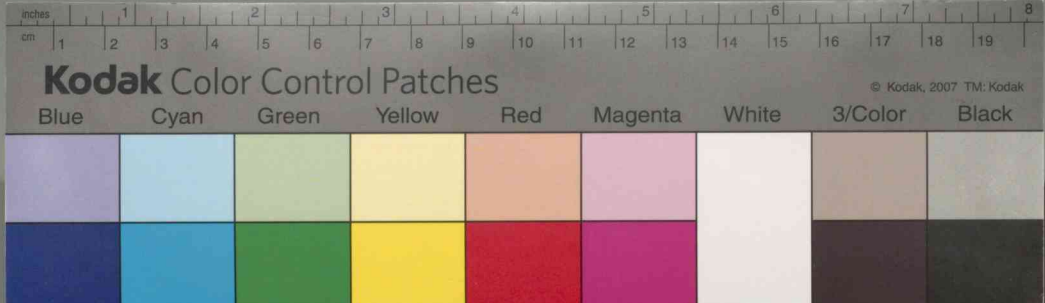
一各時代史
 上古ヨリ奈良時代ニ至ルマデハ史跡モ登見サレズ且ツ傳説等モナク如
 何ナル情態ニアツタカヲ知ル能ハヌ只奈良時代ノ末期天平寶字元年
 天皇御宇十六代孝謙天皇紀元一四一七稀代ノ傑僧勝道ガ二十三年
 大伊豆留ノ岩窟ヲ出テ三枚石ノ大劔峯ニ至ルトアリ古峯神社由來參照
 キ程今ノ間ケ今ノ食料其ノ他日用ナリ此處ニ於テ雪踏道人苦行前
 者ガ今ノ村ニ相當ニアルト思ハレタモトコロヨリ見案内キル時
 八既ニ本ノ光開山後ハ平安時代ヨリ武家時代ノ初スルマデハ日
 勝道上人ノ光開山後ハ平安時代ヨリ武家時代ノ初スルマデハ日
 思ハレトスルモ内ニアツテ政治的ニモ文化的ニモ江戶時代ノ初
 イテ千コトガ出來ルニアルテハ此地ノ塔其ノ他ノ石像ハ皆日光
 テ知ルコトガ出來ルニアルテハ此地ノ塔其ノ他ノ石像ハ皆日光

第六章 沿革

7 6 5 4 3 2 1
 各時代史
 知名人系譜
 城跡物
 史跡
 傳説
 名所旧跡

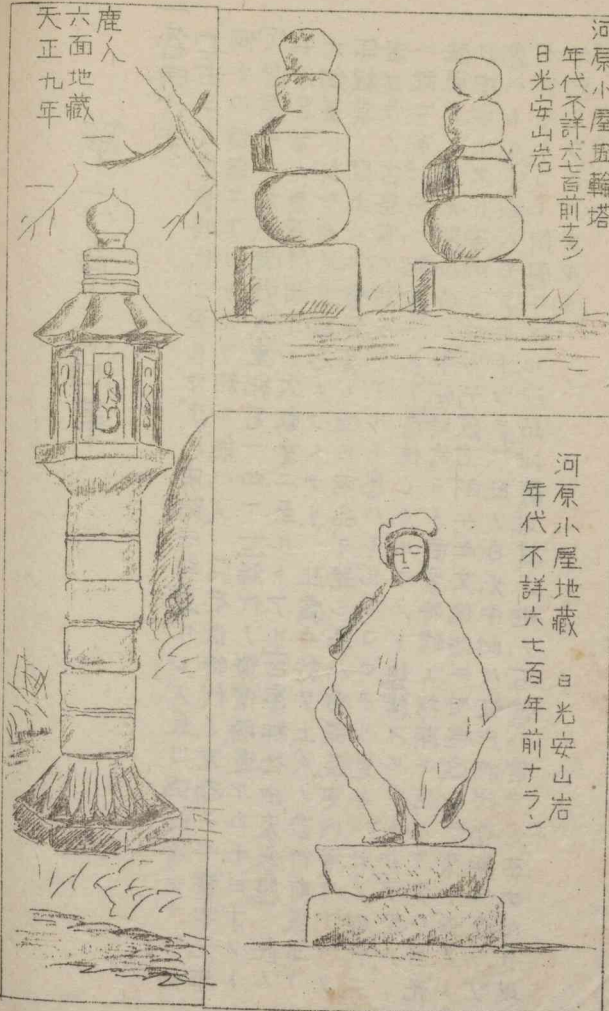
第六章 沿革

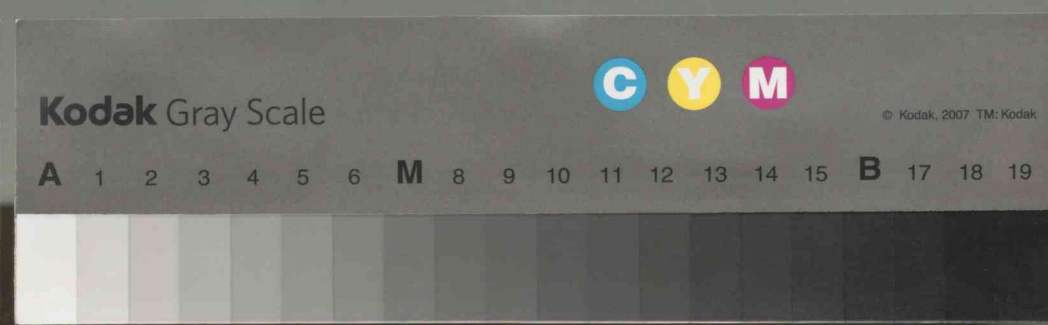




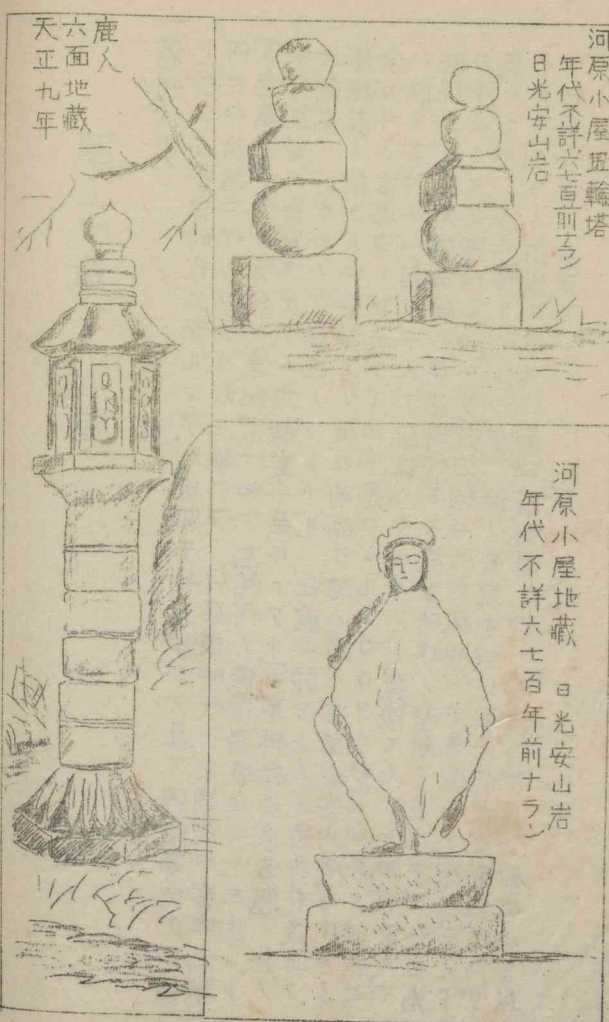
一各時代史
 上古ヨリ奈良時代ニ至ルマデハ史跡モ稀見サレズ且ツ傳説等モナク如
 何ナル情態ニアツタカヲ知ル能ハヌ只奈良時代ノ末期天平寶字元年
 欠皇第卅六代孝謙天皇紀元一四一七稀代ノ傑僧勝道ガ二十三才ノト
 大伊豆留ノ岩窟ヲ出テ大劔峯ニ至ルトアリ古峯神社由來參照此ノ
 年程其ノ間上人ニ食料其ノ他日用品ヲ給シ或ハ雪踏道案内寺ナリ
 者ガ今ノ古峯家ノ祖先アルト思ハレルトコロヨリ見レバ此ノ時代ニ
 ハ既ニ本村ニ相當ニ人居住シタルモノト想像スルコトガデキル
 膝道上ノ日光園ニアツテ政治的ニモ武家時代ノ初期ニ至ルマデモ
 思ハレトスル園内ニアツテ政治的ニモ武家時代ノ初期ニ至ルマデモ
 テ知ルコトガ出來ル

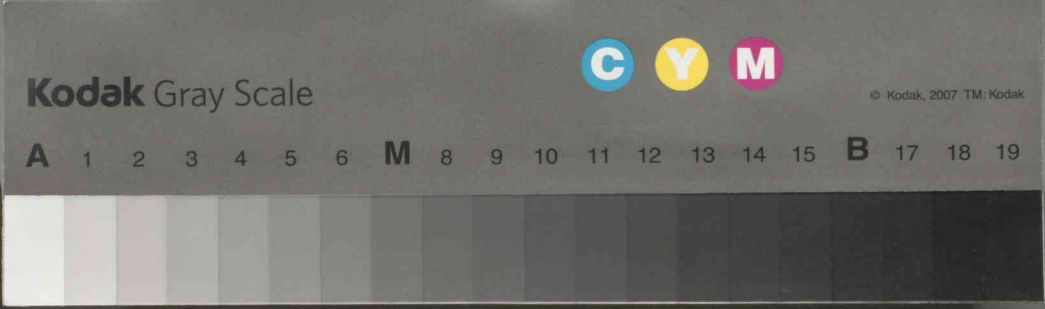
第六章 沿革





神由來ニヨレバ大芦神社ハ創健ノ年代不詳ナルモ現在ノ位置ニ移轉
 セルハ治承年間トアリ又神船神社ハ勸請ハ同ジク治承年間ト傳ヘラレ
 テ平ル文承共ニ上大夫保八梶原景季ノ策ツタ名馬磨墨ヲ産シタト
 云フ傳説ヤ此ノ辺一帯ハ梶原源太ノ領ナリト云フ說種瀨照吉氏所藏同
 家先祖系譜ニヨルモアリ又白ト吹平トノ中間ニ源太歸シト云フ地名
 アリ是等ニヨツテ想像スルニ或ハ當時此ノ種放牧ノ地デアツタカモ知
 レヌ
 鎌倉時代ノ末期ヨリ南北朝室町時代ニ亘リテハ宇都宮氏ノ勢力下ニア
 リ時ニハ生氏ノ支配下ニアツタモノデアルガ多クハ世ニ志ヲ得ザリ
 シモノ或ハ諸國ノ荊人ボツク隱棲シ其ノ儘ニ着シタモノ意外ニ多カ
 ツタモノト思ハレハ是レ傳説ヤ諸家ノ系譜等ニヨリ想像サレル處デ
 アル即チ河原小屋ハ小野篁ノ子孫ノ土着セルモノナリト云ヒ永享十
 年ノ亂ニハ足利持氏ノ子春安王日光山へ難ヲ避ケル路スガラ此ノ郷
 ヲ通リ鹿ノ城ニ宿治セル形跡ガアル福田弥吾八家系譜ニヨル
 此ノ時代ノ遺物トシテ現存セルモノ辨慶ノ書秘佛像金剛童子像運慶作
 共ニ石原義般氏藏古峯神社室物ナリ鱈口其ノ一八古鹿入給荷神社應安
 六年三月十八日トアリ其ノ一八白平鎮守貞治三年十月十五日トアリ
 共ニ北朝ノ年号ヲ用ニタルコトヨリスレハ宇都宮氏ノ勢力下ニアリシ
 時代ノモノナリ





トアル。傳フルトコロニヨレバ草久村ハ寛文六年(紀元二二三六)之ヲニ
分シテ上草久下草久トシ上ヲ御門主領下ヲ靈屋領トシタトアル。又大
久保村ハ同寛文六年日光神領トナリ上下大久保ニ二分シタト今上下草久
ノ境界ハ左ノ如キモノデアツタ。
寛文六年以後ハ明治維新ニ至ルマデ行政的ノ所屬ハ其ノマ、持續シテ
平夕故ニ政治上ノ中心ハ此ノ時代デモ日光ガソノ中心デアツタ但
シ鹿沼ヘノ交通道路モ漸次開ケ其ノ中葉ヨリハ物資ノ移出入ハ鹿沼ヨ

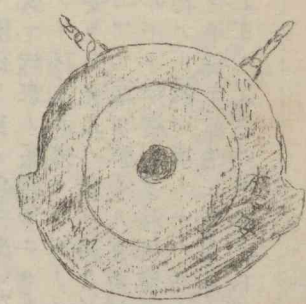
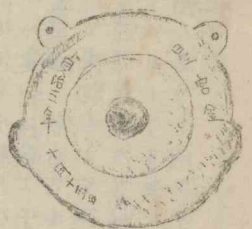
天和元年
日光領下大久保村分米帳

トアリソレヨリ約三十年後ノモノニ

慶安三年
下野國中蘇郡鹿沼領大久保村土地台帳

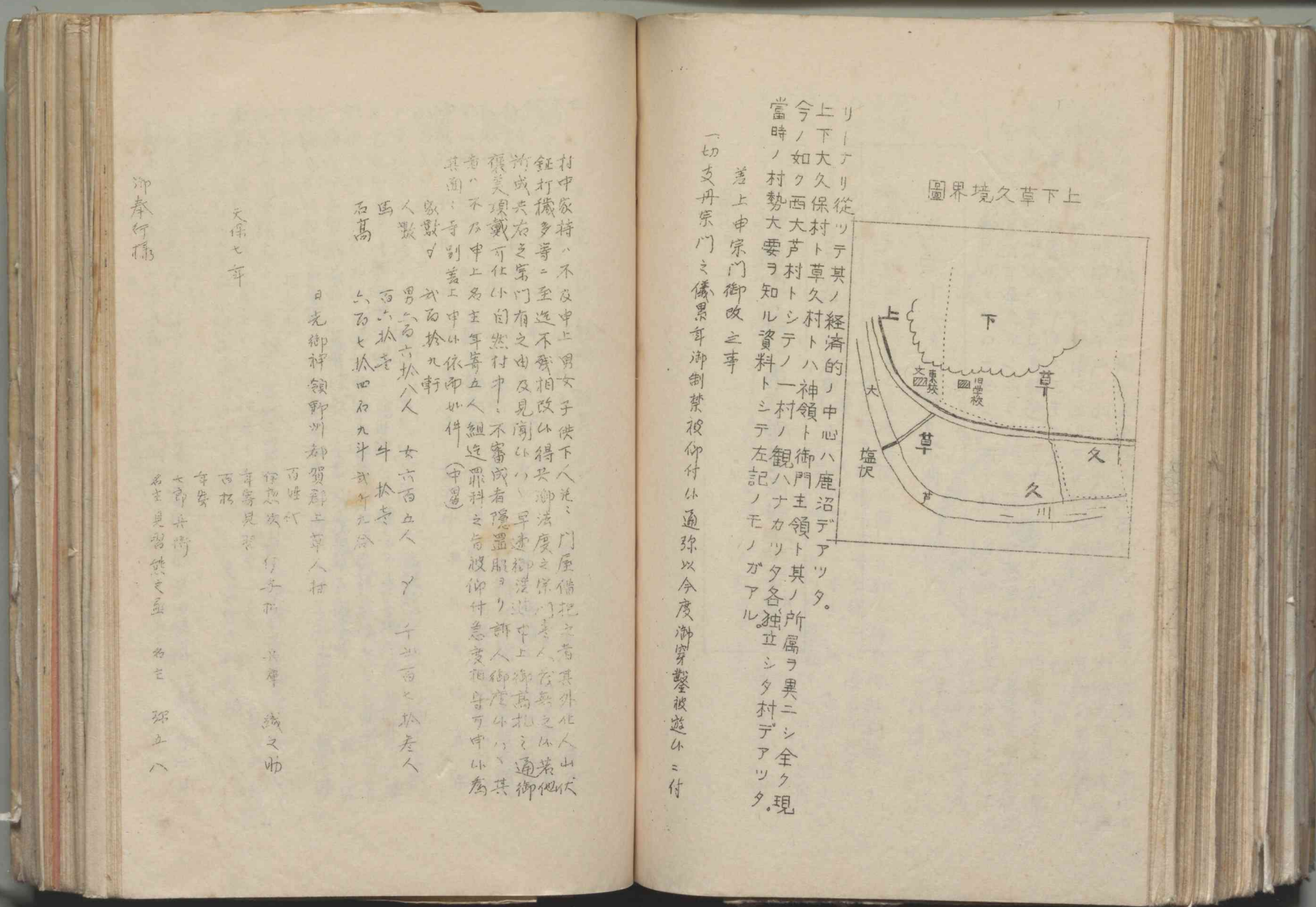
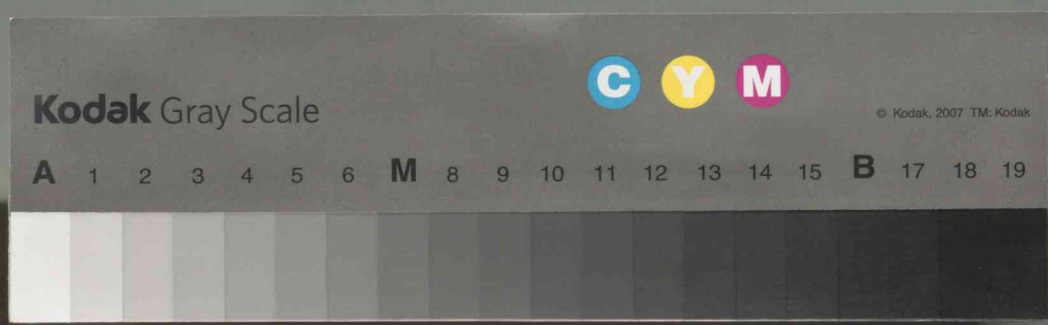
慈眼寺ノ創立ハ後屈河天皇ノ貞應年間ト傳ハル、即チ神舟神社勸請ヨリ
五十年後デアリソレヨリ二百三十四年後ニ下大久保ニハ長昌寺鹿久ニ
ハ勝雲寺古峯原ニハ長安寺等續イテ建立サレテ平ル。此ノ寺院ノ建立
ニヨリテ其ノ時代ニ於ケル登達ノ情況ハ順ラ追ツテ想像スルコトガ出
來ル。
江戸時代ハ其ノ初期ノ時代寛文以前大久保村ハ鹿沼領ニ屬シ草久ハ日
光領デアツタト思ハレル。下大久保檀淵照吉氏藏古文書ニ

白平
皇宮
鯉口見
取圖



古鹿ノ稻荷神社
ノ鯉口見取圖
銘ハ響
左刻付アリ
十方檀那寺セ僧家其外
甲ノ諸人等也
下野國都賀郡鹿沼寺施
主檀淵照吉也
慶安六年三月十八日





御奉行稿

文保七年

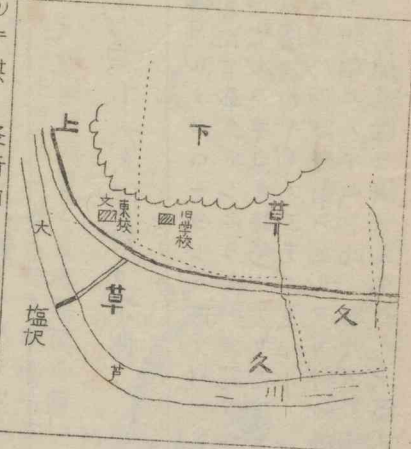
打中家持ハ不及申上男女子供下人共門屋備把之者其外他人山伏
 鉦打機多等ニ至迄不我相改以得共御法度之保門者人存無之由若
 新或共右之常門有之由及見南以ハ早速御渡道中上御高札之通御
 獲美現戴可任以自然村中不審成者隱置取リテ訴人御座外ハ其
 者ハ不乃申上及至年寄五人組迄罪科之旨被仰付急変相守可申外為
 其面ハ寺別蓋工申以依仰如件(中置)

人数 男二百八十八人 女六百五十八人 千七百七拾七人
 馬 百六拾七匹
 石高 六百七拾四石九斗貳升九合

日光御神領野州郡賀郡上草人村

百姓代 百姓代 御子所 兵庫 城支所
 年寄見取 年寄見取
 七郎兵衛 七郎兵衛
 名主 名主 孫五八

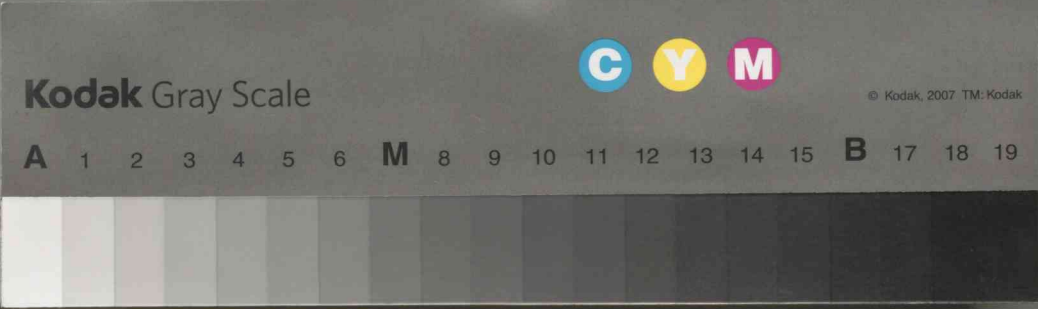
上下草久境界圖



リテ其ノ經濟的ノ中心ハ鹿沼デアツタ。
 上ノ大久保村ト草久村トハ神領ト御門主領ト其ノ所屬ヲ異ニシ全ク現
 今ノ如ク西大芦村トシテハ一ノ觀ハナカツタ各獨立シタ村デアツタ。
 當時ノ村勢大要ヲ知ル資料トシテ左記ノモノガアル

差上申家門御改之事
 一切支丹宗門之儀累年御制禁被仰付以通疎以今度御穿鑿被遊以ニ付





二 知名先人系譜

本村ニ於ケル知名ノ先人ヲ尋ヌルニ杳トシテ其ノ適確ナルモノヲ知リ能ハヌ。今ハ只傳ハレル口傳所々ニ散在スル系譜等ヲ掲ゲテ大方諸彦ノ参考ニ資スルノミ其ノ眞疑ニ至ツテハ見ル者ノ判断ニ任セルコト、スル。

○隼人主水
古峰原石原家ノ代々襲名シタル名デアアル。傳説ニハ役ノ行者ニ事ヘシ妙童鬼ガ此ノ隼人主水ノ祖先ナリトアル。尚本補陀洛山縁記ニハ勝道上人精進修行ノ際化人來與菓食之無少飢住此又送三箇年トアリ。前者ノ役ノ行者トハ勝道上人ノ事テ妙童鬼トハ後者ノ化人ノ事デアリ。證的ニハ之ガ隼人主水ノ祖先デアルト考ヘルコトガ出來ル。委シクハ古峰神社ノ項参照。

○小曾根大學頭
系譜ニ事跡等不詳。小曾根樂師由來参照。

○長昌寺開基事跡系譜等明カナラズ委シクハ長昌寺由緒参照。

○南濃宗睦禪師
長昌寺開山デアアル委シクハ長昌寺由緒参照。

○建紹大和尚
長安寺開山。委々ハ長安寺由來参照。

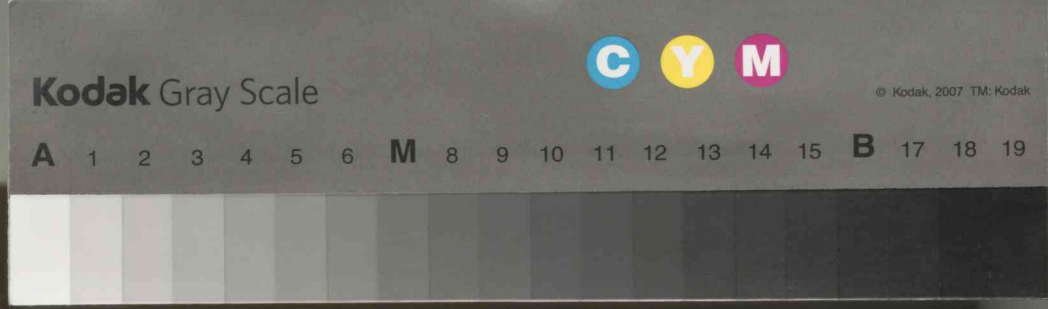
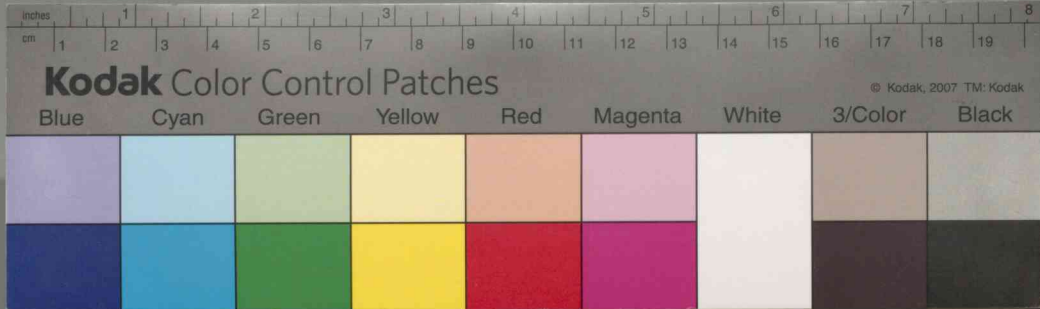
トアル。又日光ノ宮様(輪王寺一品法親王)ニ納メテ年貢ハ
炭七表 金八兩 梅一斗二升 筍三貫分 山芋三貫分 蕨一貫二百
知(上代八翁談)

生業ハ農耕ヲ從トシ主トシテ林産ノ生産ニ從事シタラシイ。草久ニ五
テアツタト云フ。トイフモノアリ之ニ若干ノ年金ヲ納メテ炭焼ヲシタモノ
村勢ハ寛政年間ヲ最盛トシ以後文武保弘化ノ代ニ至リ疲弊ノ度ヲ加
ハ遂ニ二宮尊徳父子ノ荒地起テシトナツタ。更趾ノ項参照。

現代ニ於イテハ明治ニ引田ト合シテ引田外三ヶ村トナリ。明治二十
三年四月市町村勢實施ニ際シ引田ト分シテ引田上下大久保及草久村
ヲ合シ西大芦村トシテ現在ニ至ツタ。而シテ役場所在地及歴代村長
名ハ左ノ通りデアアル。

役場所在地	年 月 日	村 長 名
下岡	明治三年 四月 日	村 長 名
古度入	明治四年 九月 日	村 長 名
八岡	明治五年 十月 日	村 長 名
全	明治六年 八月 日	村 長 名
全	明治七年 三月 日	村 長 名
全	明治八年 二月 日	村 長 名
全	明治九年 二月 日	村 長 名
全	明治十年 二月 日	村 長 名
全	明治十一年 二月 日	村 長 名
全	明治十二年 二月 日	村 長 名
全	明治十三年 二月 日	村 長 名
全	明治十四年 二月 日	村 長 名
全	明治十五年 二月 日	村 長 名
全	明治十六年 二月 日	村 長 名
全	明治十七年 二月 日	村 長 名
全	明治十八年 二月 日	村 長 名
全	明治十九年 二月 日	村 長 名
全	明治二十年 二月 日	村 長 名
全	明治二十一年 二月 日	村 長 名
全	明治二十二年 二月 日	村 長 名
全	明治二十三年 二月 日	村 長 名
全	明治二十四年 二月 日	村 長 名
全	明治二十五年 二月 日	村 長 名
全	明治二十六年 二月 日	村 長 名
全	明治二十七年 二月 日	村 長 名
全	明治二十八年 二月 日	村 長 名
全	明治二十九年 二月 日	村 長 名
全	明治三十年 二月 日	村 長 名
全	明治三十一年 二月 日	村 長 名
全	明治三十二年 二月 日	村 長 名
全	明治三十三年 二月 日	村 長 名
全	明治三十四年 二月 日	村 長 名
全	明治三十五年 二月 日	村 長 名
全	明治三十六年 二月 日	村 長 名
全	明治三十七年 二月 日	村 長 名
全	明治三十八年 二月 日	村 長 名
全	明治三十九年 二月 日	村 長 名
全	明治四十年 二月 日	村 長 名
全	明治四十一年 二月 日	村 長 名
全	明治四十二年 二月 日	村 長 名
全	明治四十三年 二月 日	村 長 名
全	明治四十四年 二月 日	村 長 名
全	明治四十五年 二月 日	村 長 名
全	明治四十六年 二月 日	村 長 名
全	明治四十七年 二月 日	村 長 名
全	明治四十八年 二月 日	村 長 名
全	明治四十九年 二月 日	村 長 名
全	明治五十年 二月 日	村 長 名
全	明治五十一年 二月 日	村 長 名
全	明治五十二年 二月 日	村 長 名
全	明治五十三年 二月 日	村 長 名
全	明治五十四年 二月 日	村 長 名
全	明治五十五年 二月 日	村 長 名
全	明治五十六年 二月 日	村 長 名
全	明治五十七年 二月 日	村 長 名
全	明治五十八年 二月 日	村 長 名
全	明治五十九年 二月 日	村 長 名
全	明治六十年 二月 日	村 長 名
全	明治六十一年 二月 日	村 長 名
全	明治六十二年 二月 日	村 長 名
全	明治六十三年 二月 日	村 長 名
全	明治六十四年 二月 日	村 長 名
全	明治六十五年 二月 日	村 長 名
全	明治六十六年 二月 日	村 長 名
全	明治六十七年 二月 日	村 長 名
全	明治六十八年 二月 日	村 長 名
全	明治六十九年 二月 日	村 長 名
全	明治七十年 二月 日	村 長 名
全	明治七十一年 二月 日	村 長 名
全	明治七十二年 二月 日	村 長 名
全	明治七十三年 二月 日	村 長 名
全	明治七十四年 二月 日	村 長 名
全	明治七十五年 二月 日	村 長 名
全	明治七十六年 二月 日	村 長 名
全	明治七十七年 二月 日	村 長 名
全	明治七十八年 二月 日	村 長 名
全	明治七十九年 二月 日	村 長 名
全	明治八十年 二月 日	村 長 名
全	明治八十一年 二月 日	村 長 名
全	明治八十二年 二月 日	村 長 名
全	明治八十三年 二月 日	村 長 名
全	明治八十四年 二月 日	村 長 名
全	明治八十五年 二月 日	村 長 名
全	明治八十六年 二月 日	村 長 名
全	明治八十七年 二月 日	村 長 名
全	明治八十八年 二月 日	村 長 名
全	明治八十九年 二月 日	村 長 名
全	明治九十年 二月 日	村 長 名
全	明治九十一年 二月 日	村 長 名
全	明治九十二年 二月 日	村 長 名
全	明治九十三年 二月 日	村 長 名
全	明治九十四年 二月 日	村 長 名
全	明治九十五年 二月 日	村 長 名
全	明治九十六年 二月 日	村 長 名
全	明治九十七年 二月 日	村 長 名
全	明治九十八年 二月 日	村 長 名
全	明治九十九年 二月 日	村 長 名
全	明治一百年 二月 日	村 長 名





○檀淵門後隆屋
 通稱仁左工門天保八年九十餘歳ノ長壽ヲ以テ逝ク下大久保ノ人デ
 大芦神社ノ神主デアツタ博學多才寛政二年正六位ヲ賜ハル大芦
 神社正一位大芦神社ノ宣旨ヲ賜ハツタノモ同氏神主ノ時代デアツタ
 今檀淵門吉氏所藏系譜ヲ摘記スレバ
 天兒屋根命之胤鎌足七世之孫藤原秀郷三十二代後裔一當榮隆村秀資
 傳曰一屋堂以下路一宗玄一宗一廣當一陸屋一隆屋
 雲祖鎮守府將軍藤原朝臣秀郷苗胤下野大楳小山義政之子四郎隆政應
 永年中有故事逃隱當國大芦山中其前住平氏之婦生赤王丸其苗胤隆貞
 其子秀義其子兼隆至藤三郎代迄此地無守護以下二行不明其先壽永
 元曆之頃境原景時之野馬之牧云々
 ○上澤氏ノ祖ト稱スルモノノ系譜
 上澤啓三郎氏所藏ノモノノ系譜
 祖先傳申覺書
 從三河守様蒲生給之由又板橋將監様々加賀給由
 天文三年續九月十五日
 朝氏 天正參年日
 俣氏 天正七丁卯年 興氏 慶長三戌年 武氏
 是迄元祖四代假名加賀此子供惣領無人次男勤解申三男小左工門四男
 惣助一略一惣助子七兵衛老後從昆沙門堂久遠壽院准右様假名被仰
 付号伊賀大越一略一五郎兵衛跡式相續也加賀是迄十代右從里沙
 門堂久遠壽院准右様被仰付以書翰上澤之二字ヨ三字ニ被道被下置
 所持仕有時忠雄見度申越外間日光江遺置候所ニ元録十一戌寅騰
 月回録ニ燒失仕世宇和沢名字者從藤原姓蒲生氏之流流分レ由申傳
 候
 于時享保十九甲寅檢正月十五日
 上澤代八氏所藏ノモノノ系記
 藤原氏ノ後裔上沢主水頭澄氏九代目朝氏一俣氏一興氏一武氏一恒
 氏是レ上家ノ種也
 恒氏ノ女ニ守都宮弥三郎義綱幸腹ノ子重綱ヲ養子トシテ一家ヲ起
 ス是レ上沢代八氏ノ祖ナリトアリ之ハ紙質黒色體裁等ヨリ見テ今
 ヨリ七八十年前ニ淨書サレタモノト思ハレル故ニ其ノ原本カ或ハ
 リノ根據トナルベキ記録ヲ見ザレバ確ニ信ズルコトヲ得ナイガ茲ニ
 記シテ諸考ノ判断ニ資ス守都宮弥三郎義綱八守都宮公綱十五代胤也
 ○河原宣安氏藏福田家系譜畧記
 源義家ノ子義時十四代ノ孫憲隆ヲ祖トシソレヨリ十六代ノ孫ヲ弥五





八宣隆トス 憲隆ヨリ六代ノ孫高義ノコト
 天文十二年誕生孫ナリ宇都宮ノ族石川氏ノ縁辺ナル大芦氏ニ養ハル
 全家ハ容愛城主ナリ生ノ城主綱雄ニ屋ス城ハ曾祖石川憲氏ノ築ク
 處ナリ
 憲氏テ永享十年ノ乱ニ持氏ノ孫見春王安王ヲ奉ジニ荒山ニ遁シ路都
 賀ノ山狹ヲ過グ山狹ハ即ケ大芦郷ノ一部落ニシテ続ラスニ高山大
 岳ヲ以テシ且ツ東南ノ陰一カヲ扼スレバ百刀ノ大軍モ又憂フルニ足
 ラザル一ノ別天地タルヲ以テ弟ノ憲信ニ談ジテ自ラ之ニ築キ乱ヲ避
 ケ氣ヲ養フノ要地トナス名ケテ容愛城ト云フ其ノ後留守ヲ置キ
 シガ宇都宮成綱ニ至リ其臣石川憲幹ヲ論シテ城土ヲ生シ憲重ニ致サ
 シメ憲幹ニハ他ニ於テ遣ハシム是ヨリ大芦郷ハ生シ憲重ニ呼バ
 ニ鹿沼入城トス城代生綱義ニ至リ故アリテ高義ヲ養ヘ女ヲ以テ
 其ノ配トシ家督セシムルニ至ル是ヨリ大芦郷ニ左工門ト稱ス宇都
 宮廣綱ニ任ヘシガ綱雄等ノ異心ニヨリ故主上杉氏ニ應ジ却テ生城
 ヲ攻ムト云フ

○福田正道氏藏系譜
 源宗親—宗昌—元良—元喜—貞喜—貞行—喜覺—都賀郡上草久—愛宕大
 明神白根大明神職等

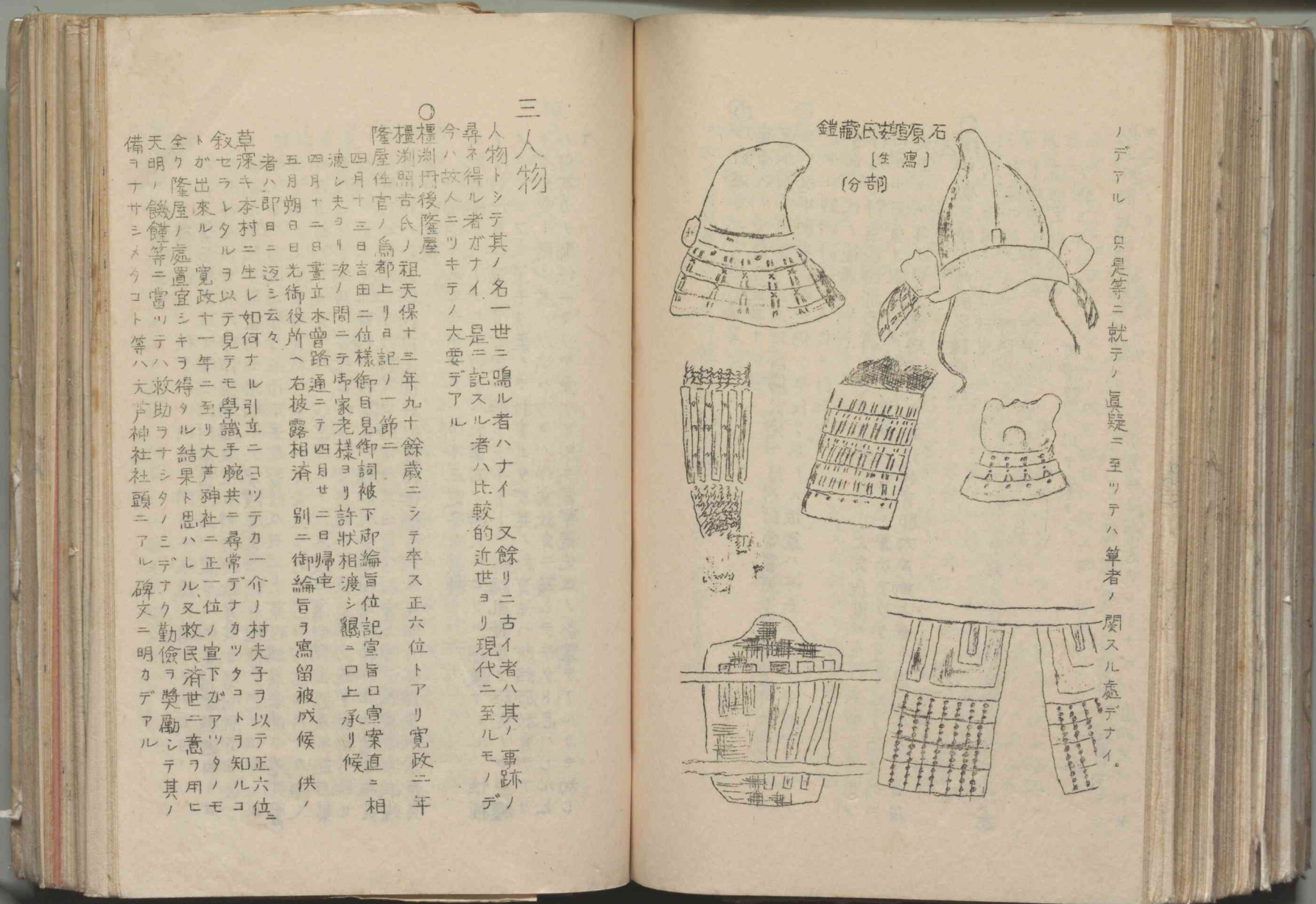
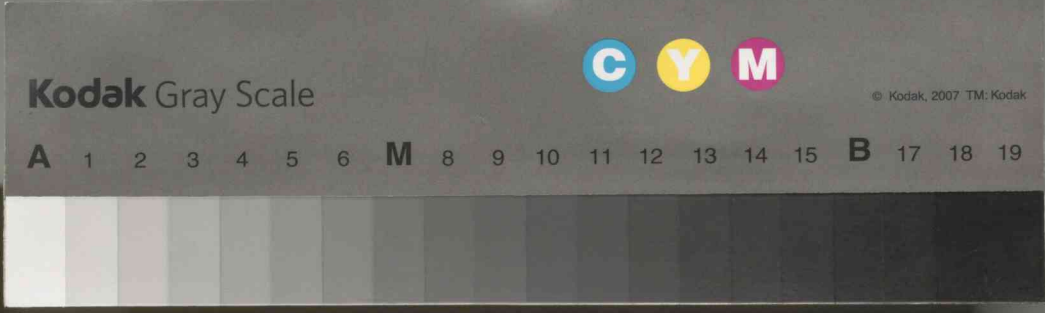
○石原吉氏所藏系譜
 大和守藤原善度—善内(姫宮神社神職)—兵庫—歌吉—多門

○石原源吉氏所藏系譜畧記
 藤原氏ノ後裔鎌足三十代孫
 實永(永井)家名ヲ嗣ゲ仍テ平氏ヲトス坂東八平氏ノ一ナリ建武三年八
 月十日野州利根川ニ於テ計死ス

○福田慶三郎氏所藏系譜略記
 源氏ノ胤福田大隅政重
 文祥二年二月下野國鹿沼庄草久宇落合中内ニ住ル屋敷一反二十ニ步
 一政廣—政直—三郎兵衛—之ヨリ七代目
 清明三郎兵衛
 天保三年十月十日相續醫ヲ以テ業トス

以上外尚系譜等諸家ニ藏シテアルコトト思フ 今ハ只資料ヲ提共セラレ
 タモノノミニツキ記シタノデアツテ今後發見サレタナラバ追加スベキモ

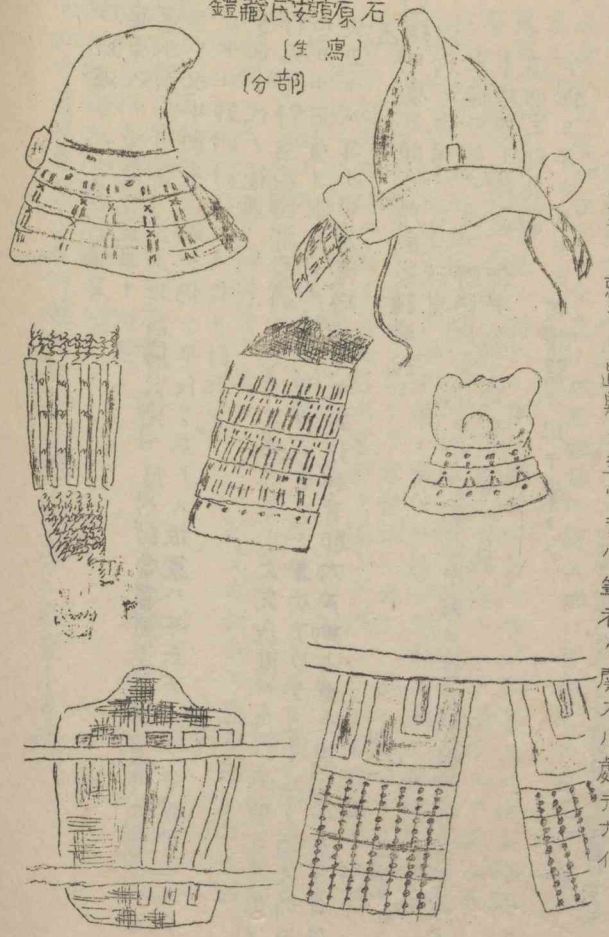




三人物

人物トシテ其ノ名一世ニ鳴ル者ハナイ又餘リニ古イ者ハ其ノ事跡ノ
 尋ハ不得ル者ガナイ是ニ記スル者ハ比較的近世ヨリ現代ニ至ルモノデ
 今ハ故人ニツキテノ大要デア
 ○櫻淵丹後隆屋
 隆屋性官ノ鳥都上リ日記ノ一節ニ
 四月十三日吉田二位様御目見御詞被下御編旨位記宣旨口宣案直ニ相
 渡レ夫ヨリ次ノ間ニ侍家老様ヨリ許狀相渡シ懇ニ口上承リ候
 五月朔日日光御役所へ右披露相濟 別ニ御論旨ヲ寫留被成候 供ノ
 草深キ本村ニ生レ如何ナル引立ニヨツテカ一介ノ村夫子ヲ以テ正六位
 叙セラレタル寛政十一年ニ至リ大芦神社ニ尋常テナカッタコトヲ知ルコ
 トガ出来ル寛政十一年ニ至リ大芦神社ニ尋常テナカッタコトヲ知ルコ
 全ク隆屋ノ處置宜シキヲ得タル結果ト思ハレク又救済世ニ意ヲ用ヒ
 天明ノ饑饉等ニ當ツテハ大芦神社頭ニアル碑文ニ明カデア
 備ヲサシメタコト等ハ大芦神社頭ニアル碑文ニ明カデア

石原氏藏鎧 (生寫) (分胡)



ノデア
 只是等ニ就テノ眞疑ニ至ツテハ筆者ノ関スル處デアナイ。





福田三郎兵衛清明
 中内福田慶三郎氏ノ祖テアル同家ノ門前ニ報徳ノ碑カアル文曰ク
 婦人名勇原重信女嫁中内村福武一農事之暇業醫嘗歷遊四方
 一年婦人代夫年内外稼穡織紉夙夜不懈而教育其子清明無不
 鄉稱其賢殆不耻孟母也清明亦天資謹厚有所謂自強而不息之
 其之母之薰陶博學多能而能書能醫傍及百工之事後終其喪而
 者實婦人之功居多矣武一天保二年辛丑七月十七日沒享年六
 安政五年戊午九月十七日沒享年七十六其性至孝親愛厚之所致
 葬後廬於家側居七晝夜其追慕之深盡雖天性是母之親愛厚之
 清明令盡七十而瞿瞿日報業而不讓壯夫是難因其平常親愛厚之
 幼時慈母節養之力故對其兒孫每說其母舊時教育之勞苦抑生之
 其至情一家為感動焉兒孫計欲建報徳碑今茲生午四月其孫來
 事乃記其概

明治十五年壬午四月 岡本正定書於篆額

三郎兵衛ノ人トナリニ就テハ大要右ノ碑文ニヨツテ想像サレル
 メテ快活ノ身體強大骨力衆ニ勝レテ平々ト諧謔風發事ヲ談笑ノ中
 ハタカ慈愛ト云フ又筆子ヲ集メテ教育シタガ其ノ教育法ハ所謂
 ハ何等カノ關係ニヨリテ受ケタルニ宮尊徳先生ノ影響テアルカ
 モ知レシ

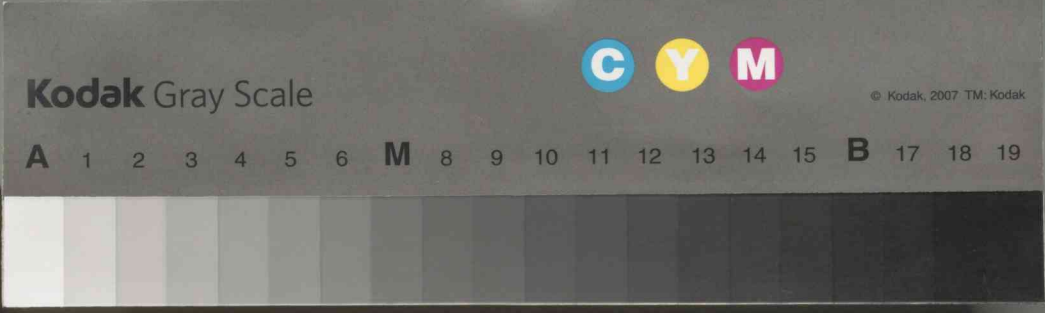
福田三郎兵衛古文集二左ノ如キモノガアル
 安政四年己未十一月
 村内銘、相續遺蹟取建助成積金議定書
 野州郡野郡上草久村 中内 内倉

議定書
 日光御神領野郡野郡上草久村之内内倉兩坪義者先年家敷式拾
 四町有之山所山德薄ニ村方ニ而追、固窮以多し當時潰屋敷八軒残り
 拾六軒ニ義難者多ク誠ニ山畑質地ニ入置以借金凡三百兩余し有
 之上畑者他村近實地ニ相渡置簾畑而已作り居以類も有之難義至極之
 義取捨置ハ、猶難法可相成ニ付去ル天保四年十一月中年寄見習
 勇松より右兩坪總乃い等之夜業い多し度殿及相談小慮得心承知上
 積金仕才之通議空い外置以

一口 武八 藤兵工 一口 紋藏 一口 竹重
 一口 瀧之助 一口 沢藏 一口 宇兵工 一口 七左門
 一口 李左門 一口 勇松 一口 宇内 一口 定吉
 一口 梅二門 一口 勇松 一口 宇内 一口 定吉

濱家一 郎石工門新之邊藤石工門善兵工 就石工門勤左工門
 金石工門弥兵工





再議定書
 此度一同相談ニ有金高一割引除キ家無貧福之無差別一人一割
 相成水品植付置後年創體又者如何之難儀相成ハ其外金子可
 可致置勿論賣不いた度節者一同相談之上可取計尤も代木い多ハ金
 高一割引除キ前々通り財木を任立置可申ハ残金者鋭ハ割取可申ハ
 且又財木仕法之義者兩坪承ノ遺家為無之子孫者不及申永代
 水之度右仕法之通り与度相守可申ハ事
 右一割引除キ残金之義者此度相談而金四拾四兩銘口數割渡相成健
 請取申ハ残金之義者是迄之通り積立置可申ハ尤積金百兩以下者如
 何様之義有之ハ共配當致度段快申出間敷ハ且又貸付金之義者安切

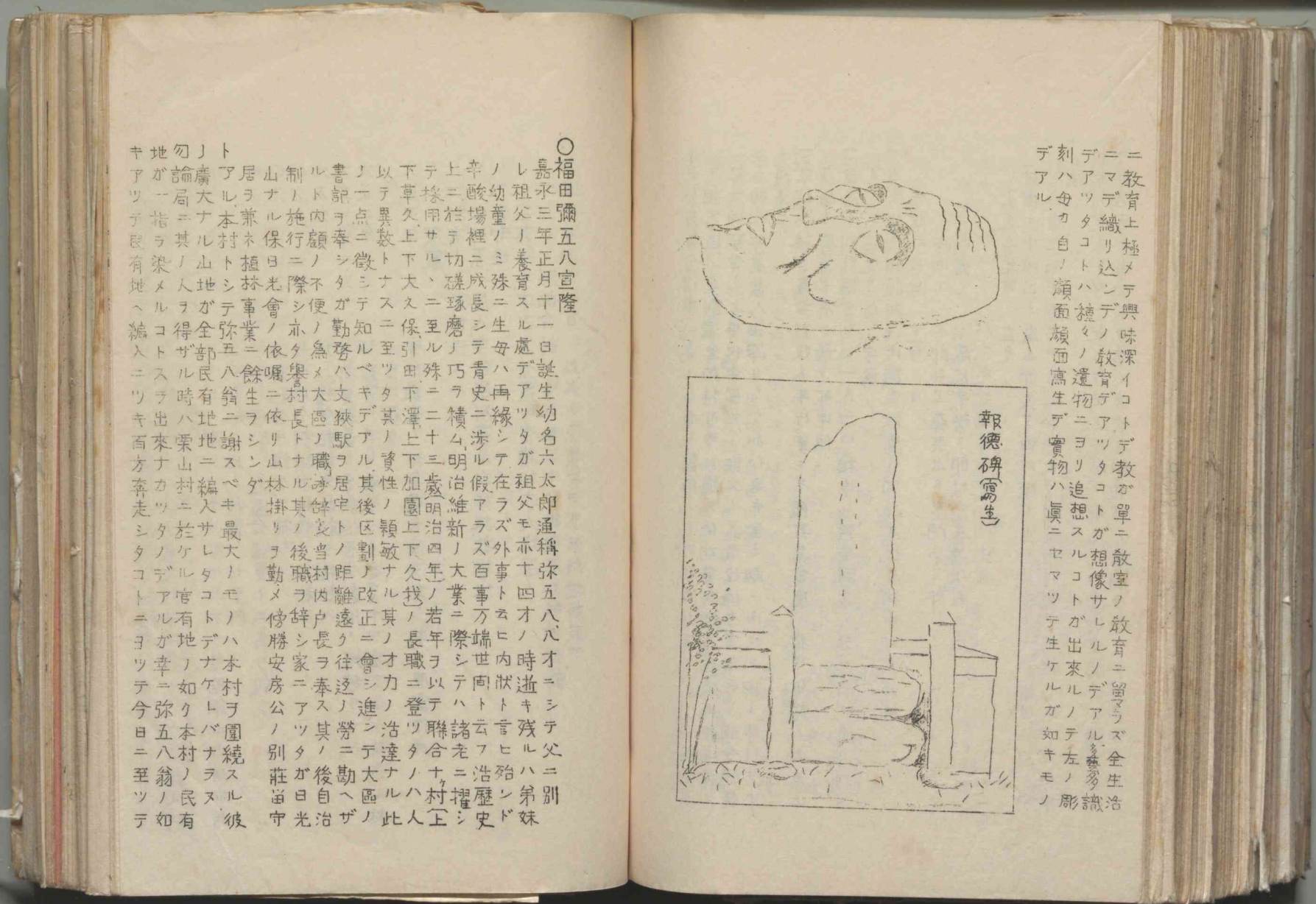
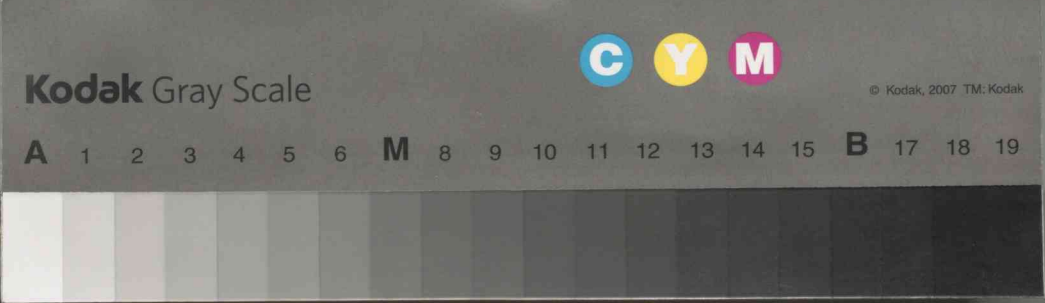
再議定書
 此度一同相談ニ有金高一割引除キ家無貧福之無差別一人一割
 相成水品植付置後年創體又者如何之難儀相成ハ其外金子可
 可致置勿論賣不いた度節者一同相談之上可取計尤も代木い多ハ金
 高一割引除キ前々通り財木を任立置可申ハ残金者鋭ハ割取可申ハ
 且又財木仕法之義者兩坪承ノ遺家為無之子孫者不及申永代
 水之度右仕法之通り与度相守可申ハ事
 右一割引除キ残金之義者此度相談而金四拾四兩銘口數割渡相成健
 請取申ハ残金之義者是迄之通り積立置可申ハ尤積金百兩以下者如
 何様之義有之ハ共配當致度段快申出間敷ハ且又貸付金之義者安切

右二拾二口吉口ニ付金三未宛年ノ積ハ積リ
 金銭取取高崎兩坪中積起リ年行事兩人宛可相勤事
 年十月晦日十一月晦日一月立會取調勘定可致事
 村方山畑實地請送シ度義申出ハ一同相談之上請送シ當人ニ貸
 付置定一割之利分十月晦日可取立事
 村方貸付金之口ニ付七兩高ニ相定ハ事
 追而利分引金ハ馬代屋根替ノ于當金として三兩宛出し一分之越金
 而困窮者預ニ可為取讓ル以下署名捺印略

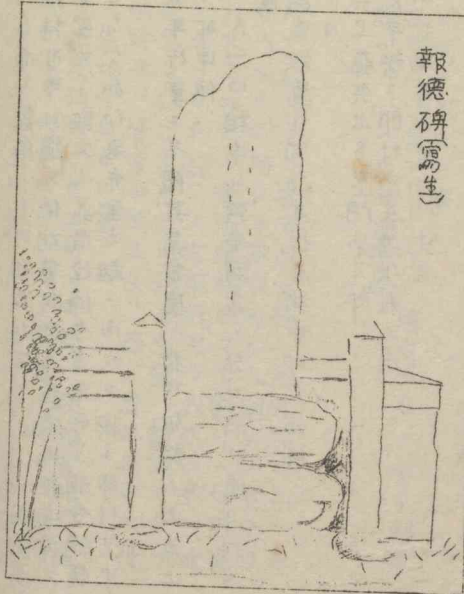
文久三年癸丑三月
 村内二十四口之處三郎兵衛四口源之丞一口善次一口都合六口一口
 付金三兩三分外二百四拾二文ツ割送兩坪銘ノ不殘一口ニ相成申
 候
 以上ハ原文ノマ、記シタモノデ彼ノ有名ナ内倉貯金組合ノ議定書デ
 アルガ之ニ参加シタ者ハ多ク三郎兵衛ノ薫陶ヲ受ケタ筆子アルコト

一、金銭取扱之義者村役人年行事ニ不限其集金度ニ村中相談之上身上
 手厚キ寄身之者ニ預ケ可申候
 一、金高一割引除キハ一人一口相申ハ残金積立之分ハ前々通り於五
 人ニ二口定リ居リ申候
 一、右者村内相談相決再議定致置ハ同後年迄度相守可申候
 安政四年巳年十月日
 中内 三郎兵衛 藤兵衛 多左門 宗三郎
 七藏 辰平 繁三郎 竹重 喜傳 次 秋石 門
 八十六 弥助 善次 重郎 治定 吉





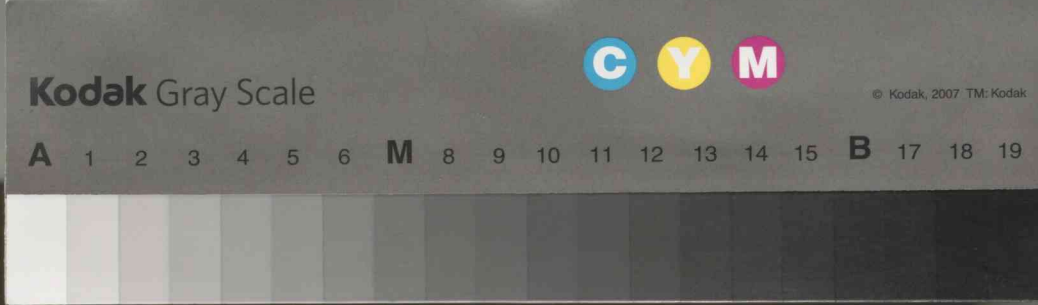
○福田彌五八官隆
 嘉永三年正月十一日誕生幼名六太郎通稱弥五八八才ニシテ父ニ別
 租父ノ養育スル處デアツタガ祖父モ亦十四才ノ時逝キ残ルハ弟妹
 ノ幼童ノミ殊ニ生母ハ再縁シテ在ラズ外事ト云ヒ内狀ト云フ浩歴史
 幸酸場裡ニ成長シテ青史ニ渉ル假アラズ百事ヲ端ニシテハ諸老ニ擢シ
 上ニ於テ切磋琢磨ノ巧ヲ積ム明治維新ノ大業ニ際シテハ諸老ニ擢シ
 テ授用サル、ニ至ル殊ニ二十三歳明治四年ノ若年ヲ以テ聯合十村上
 下草久上下大久保引田下澤上下加園上下久我ノ長職ニ登ツタノハ人
 以テ異數トナスニ至ツタ其ノ資性ノ穎敏ナル莫ノ才力ノ浩達ナル此
 ノ一点ニ徴シテ知ルベキデアリ居定トノ距離遠ク往還ノ勞ニ勤ヘザ
 書記ヲ奉シタガ勤勞ハ文狹馭ヲ居定トノ距離遠ク往還ノ勞ニ勤ヘザ
 ルト内願ノ不便ノ為メ大區ノ職ヲ辭シ長ク往還ノ勞ニ勤ヘザ
 制ノ施行ニ際シ亦々譽封長トナル其ノ後職ヲ辭シ長ク往還ノ勞ニ勤ヘザ
 山ナル保日光會ノ依囑ニ依リ山林掛リヲ勤メ傍勝安房公ノ別莊出守
 居ヲ兼テ植林事業ニ餘生ヲシタ
 トアル本村トシテ弥五八翁ニ謝スベキ最大ノモノハ本村ヲ圍繞スル彼
 廣大ナル山地が全部民有地ニ編入サレタコトナケレバ本村ノ民有
 勿論ニ其ノ人ヲ得サル時ハ栗山村ニ於ケル官有地ノ如ク本村ノ民有
 地が一指ヲ染メルコトスラ出来ナカッタノデアリガ幸ニ弥五八翁ノ如
 キアツテ良有地へ編入ニツキ百方奔走シタコトニヨツテ今日ニ至ツテ



報徳碑(寫生)

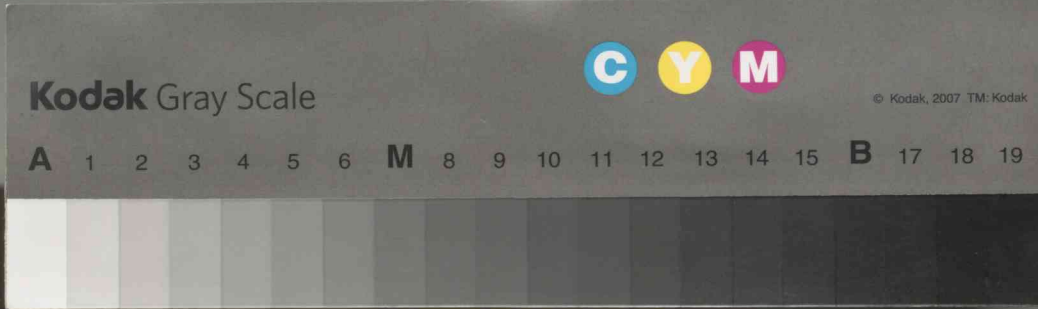
ニ教育上極メテ興味深イコトヲ教ガ單ニ散室ノ教育ニ留マラズ全生治
 二マデ織リ込メテノ教育デアツタコトガ想像サレルノデアリ多ク識
 デアツタコトハ種々ノ遺物ニヨリ追想スルコトガ出來ルノテ左ノ彫
 刻ハ母カ自ノ顔面類面寫生ヲ實物ハ眞ニセマツテ生ケルガ如キモノ
 デアル





牛ル余事ナカテ其久共有山林分割問題始末ヲ捕記スレバ
 明治初年ノ改正ニヨリ終故掃下ニヨリ草久村共有林トナツタ総又別
 明治二十三年
 二十一年々期ヲ以テ共有地上木ヲ足尾銅山古河市共
 正ニ賣却此ノ代金七千円
 明治二十九年三月、共有地管野ノ爲區會議員十二名ヲ設ク、
 明治四十四年、造林組合ヲ設ケテ植林ス
 明治四十五年、共有地分割請求ヲ提起ス
 大正元年、地上權登記請求ヲ提起ス
 大正二年二月、上都賀郡長ガ分割派ノ調停ヲナス
 大正三年七月、協約書ニヨリ兩派ヨリ委員十二名ヲ拳ゲ共有山林
 ノ實地踏査ノ結果處分法決定シ其ノ原案作成
 大正四年十月、實地踏査ノ結果處分法決定シ其ノ原案作成
 原案
 一村有トシテ提供スルモノ
 一宇河原小屋人、宇古峯、原裏山、宇横根、牧場地
 一賣却地
 一宇路平人、宇古峯、原裏山、宇横根、宇大塩澤入
 大正五年四月一日、以上ノ原案ニヨリ示談控訴取下
 大正六年六月八日、區有財産賣却許可ヲ受ク
 大正七年五月、競賣執行 山林金圓ノ分割配當完了
 大正九年七月、登記執行
 以上ノ経緯ニヨリ共有地八個人所有トナツタノデアアルガ其ノ基ハ弥五
 八翁ノカニヨルコトが大デアアル
 ○大賣市三郎翁
 白平大賣市三郎翁ノ祖勤儉儉産ヲ始今尚家運繁榮シテ平ル
 其ノ基礎ハ翁ノ遺訓ニヨル左ノ如シ
 大賣市三郎翁之遺訓
 一朝起キテ必ス神佛ヲ拜スコト
 一農ハ下種ノ時ヲ失セザルコト
 一山林ニハ杉樟ヲ植付ルコト
 一伐採ノ跡ハ翌年必ス植付ルコト
 一年越ノ跡ハ翌年必ス植付ルコト
 一農家ハ高業ヲナサザルコト
 一泉樹ハ梅柿ヲ植ルコト
 ○星野瀬重翁
 星野多四郎氏ノ養父昭和二年墳齡九十ヲ越テ大往生ヲ遂ケタ、當時
 稀ニ見ルニ宮報徳教ノ体得者デアツテ、齡九十ニ達シテモ朝夕家事ノ
 牛傳ハ勿論一人黙々トシテ夕闇ノ下人知レズ諸人ノ爲ニ道路ヲ直シ





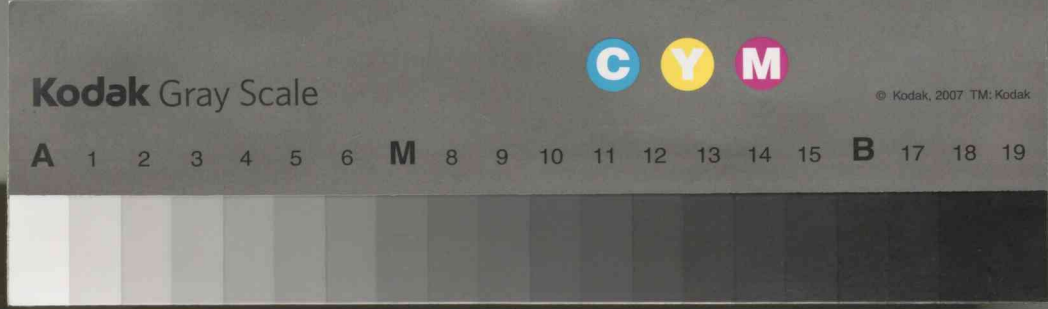
テオタト コノ事ヨリ翁ノ全般ヲ想像スルコトが出来ル
 ○神家満三郎
 鹿ノ入神家満偵父 明治三十二年十一月一日ヨリ全三十五年三月二
 十日マデ村長トナル
 ○並木佐市
 上大久保並木杉次氏父 明治二十四年十一月十六日ヨリ全三十二年八
 月二十九日マデ村長
 ○阿久津平治
 下大久保阿久津平一郎氏父 大正十年二月十七日ヨリ昭和四年二月十
 六日マデ村長 性厚篤実人ヲ容ル、ノ量アリ自治ノ円満ナル發達ハ同
 氏ノ功大キニ居ル
 ○大賞幸松翁
 吹平大賞牧太郎氏 昭和四年七十餘オデ死去
 明治十九年ヨリ日光場ノ見廻リ役トナリ 大正十年マデ勤メタ性
 謹嚴朴訥古風燦然トシテ陽陰ナシト云フ有様 元師上村大將等ニハ殊
 々天下ノ名士ニ愛サレタテ西郷從道公東郷元師上村大將等ニハ殊
 ニ愛サレ其ノ名士ニ愛サレタテ西郷從道公東郷元師上村大將等ニハ殊
 場ニ編入サレタテ略圖ハ別紙ノ通りデアル
 鹿ノ入ニ容愛城トイフモノアリト傳ハルモ城ト名ノ附ケ程ノモノデ
 ハアルマイト思フ 若ノ一極ニ過キマイト思フ 其ノ他城跡トシテ
 特記スベキモノ未ダ發見サレズ

四 城跡

古峰原一帯及三味石深山巴ノ宿ヲ中トスル七宿コレハ日光開山ヨ
 リ明治維新ニ至ルマデノ間ニ於ケル日ノ興亡ト關係アリ宗教史ハ三
 ノ遺跡ヲ生シテ尚ホ詳細ハ第四卷ノ南ノ項ニ參照ス 左ノ圖ニ示スル
 味石ノ瀧生ノ地ノ間ハ自然ノ洞窟ヲシテ雨ノ降ルニテタナキ靈場テ
 眺望絶佳ノ石ノ洞ハ天子ニヨツテ見シタ大峰ノ宿ニナキ靈場テ
 ノ昔沙弥道ノ明下ルコトハ一ノ宿ニテカバニテ此處ニ同ジ
 ル三味石ヨリ草庵ヲ結ンデカテ悠々ハ一ノ宿ニテカバニテ此處ニ同ジ
 ク沙弥道ノ草庵ヲ結ンデカテ悠々ハ一ノ宿ニテカバニテ此處ニ同ジ
 ニ來テ静座勤行スル道場デアツタ今ハ一ノ宿ニテカバニテ此處ニ同ジ
 石及ビ朽ナタル柱木等ガ散乱シテ今ハ一ノ宿ニテカバニテ此處ニ同ジ
 ルコレヲ巴ノ池ト云フ 急氣人ニ迫ル聲境ヲ持ツ地デアリ

五 史跡





○二宮堰

神舟神社前大芦川ノ水ヲ上下大久保ノ水田ニ灌ゲ堰デ本村ノ最重要ナル用水デアリ是ハ二宮翁ガ日光神領地起迄ニ当リ親シク其ノ仕方ニヨリ生シタルモノデアリ築当時ハ岩石迫ツテ最トモ地利ヲ得夕地点デアツタガ明治三十五年ノ大洪水ノ爲岩石流失ノ爲メ現今モノハ當時ノモノヨリヨリ大キク流失シ易クナツテ其ノ今權淵照吉氏藏古文書ニヨレバ

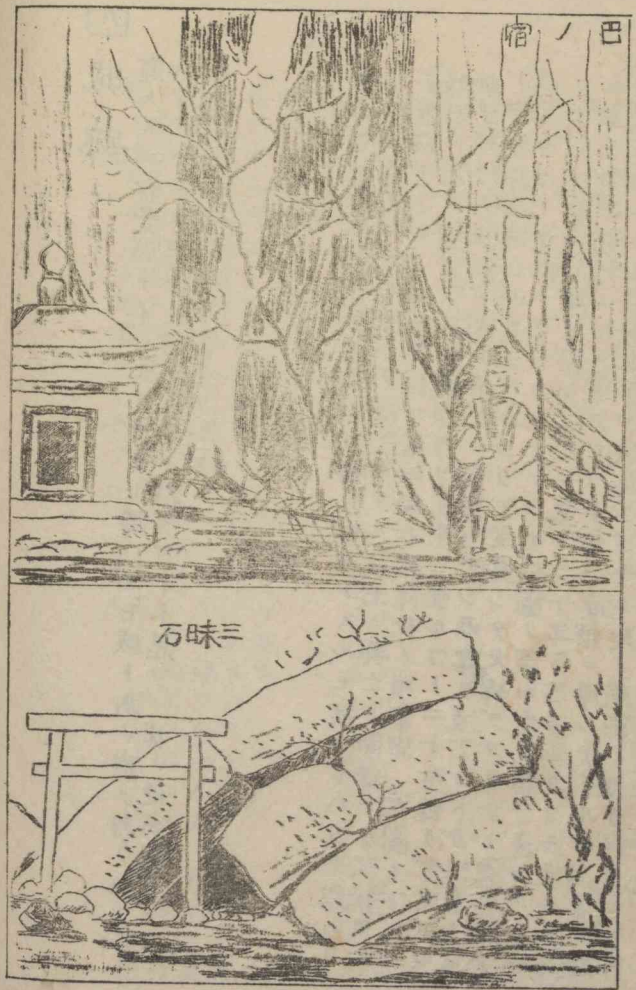
覚書

二宮金次郎と申人者小田原大久保様御領之百姓ニテ書夜共出精之上葦畑起迄申自分住居之分起迄相濟村方ニ至ル迄夫ノ開墾いたし其後御公儀様へ申領立申立葦地起迄申領立申領立ノ在櫻町と申處ニ七八年住居致し又其後神領之内十年も住居いたし新開墾地起迄いたし度種日光申奉行申領中ノ處御聞濟之上今市上町裏へ家作普請いたし願出口申見分之上口大勢運來リ掛金子ハ無利益長年賦極ニテ取揚ル由又自分力ニテより起迄しハ處へハ道具代として天ノ巻反歩位ニテ三百ヒ下ル云々

安政六年四月十一日

權淵丹後

享年六十六才





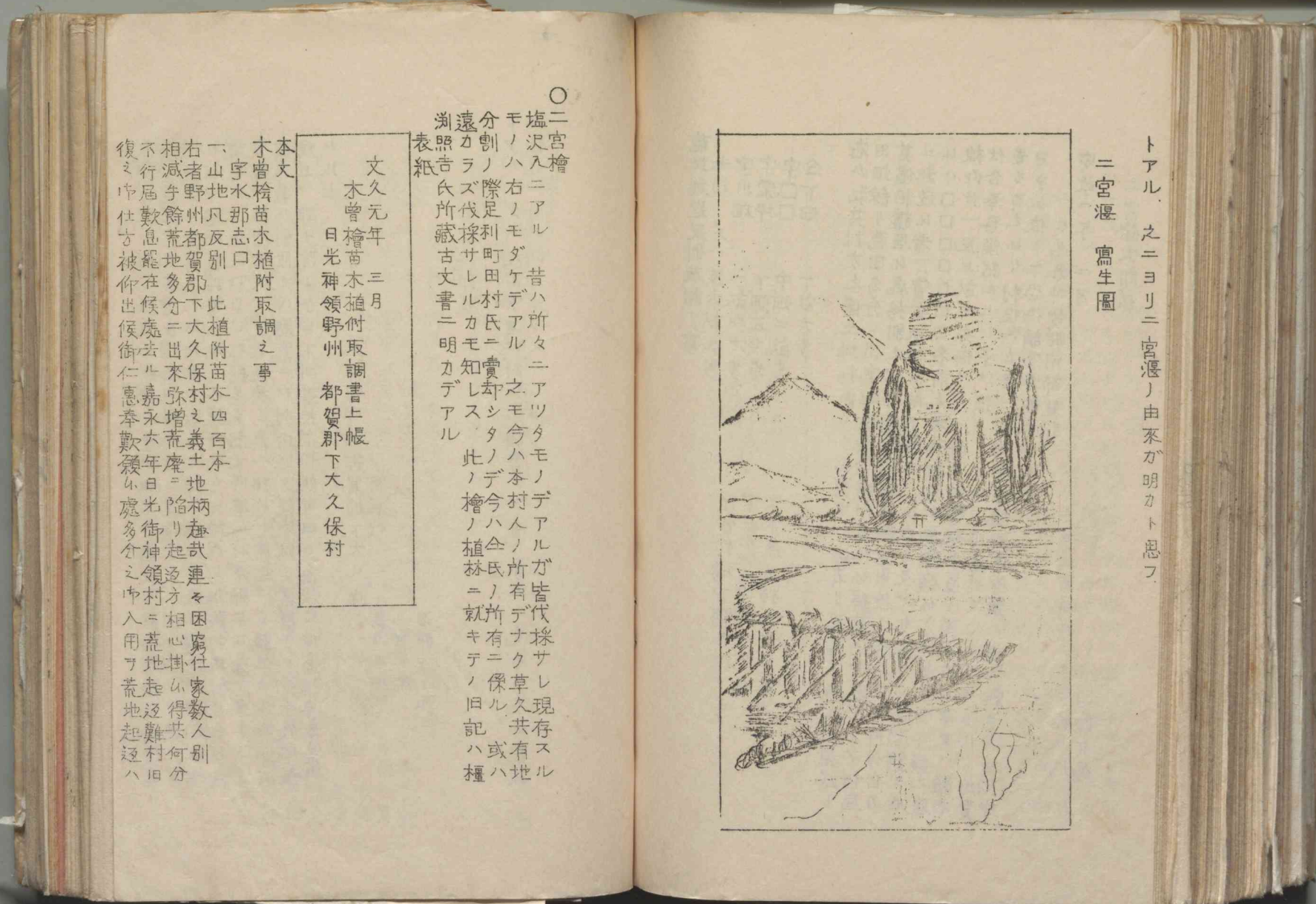
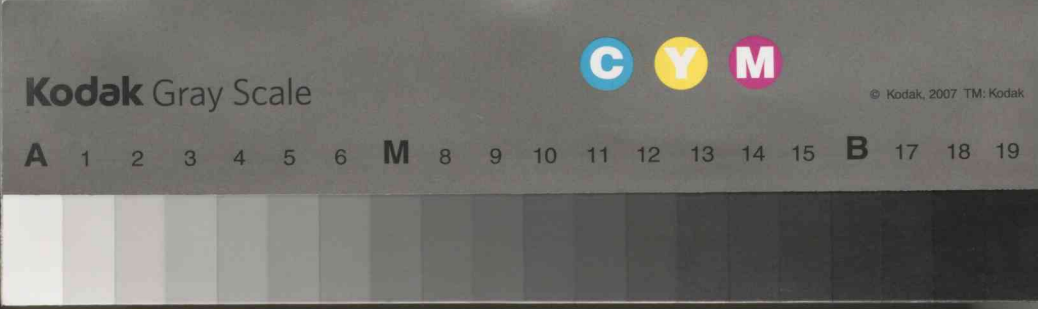
荒地起返別取調ノ事
七〇一 反六畝三歩
字川畑 一畝二十歩
字粟坪 下畑五七歩
字下畑 中畑二畝歩
全下畑 一畝六歩
右ハ私共村方之儀土地柄悪シク困窮或ハ逃去リ死潰家敷人別相減シ
田畑餘リ荒田多分ニ出来起返方一同青任以得共御任方被仰付自力
其儘相讓居以處格別以作惠荒地起返難村旧後之御任方被仰付自力
ニ起返以者ハ賃金扶持米被下置又ハ自力ニ及ズル者ニハ御開墾ニ成
以々〇〇〇
被仰付一反三畝三歩御年入ニ而中用廻被下置子孫承久之幸重々難有
仕合奉存候然ル上ハ子々孫々ニ而向後怠荒等無之様申越意度相守
等申以依テ乍恐御請書奉差上以以上
日光御神領野州都賀郡
安政二年二月
二宮弥太郎様
下大久保村百裡代
名立見習
三左工門
治郎兵衛

差入申對談一札之事
一、此度上大久保字河久保榮勤請地筋下大久保村ニ至ル字大日原其
外川通り永々荒地多分ニ原座ニ處私共而已ニテ起返難行ニ御座
候ニ付御時節柄ニ宮様ヘ奉願上仕方之受付け上大久保村之内宇
神舟前より田用水引込田成畑ニ仕方得ハ兩村之子孫承久廣大村
益々可相成以間筋地所持一統對談取極リ然ル上ハ堀筋ニ施テ
一人ニ反對異存々間敷義野無御座候仍而連印差入申一札如件

安政二年 六月
上大久保村連名 十六名
下大久保村連名 十七名
世話人 四名
上百姓代 四名
兩村取締 名主 檀淵 八名 丹後

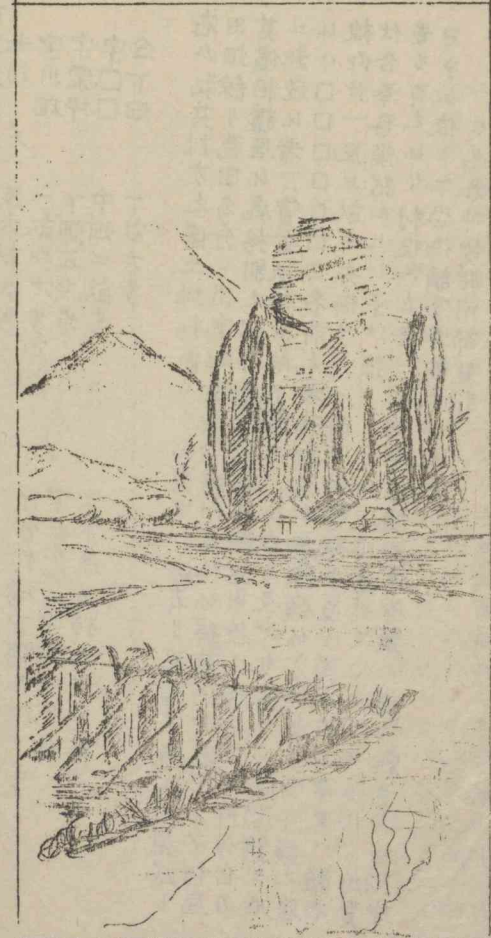
荒地起返別取調書上帳
日光御神領野州都賀郡下大久保村





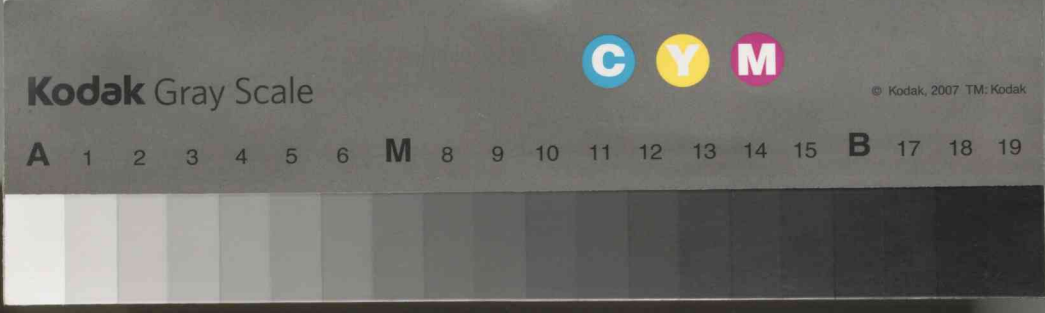
本文
木曾榎苗木植附取調之事
一山地凡反別此植附苗木四百本
右者野州都賀郡下大久保村之義土地柄趣武連之因窮任家数人別
相減手餘荒地多分ニ出來弥増荒座ニ陥り起方相心掛ハ得共何分
不行届敷魚罷在候處去ル嘉永六年日光御領村ニ荒地起迄村ハ
復之中仕方被仰出候御仁惠奉歎願ハ處多介之中入用ヲ荒地起迄村ハ

○
二宮榎
塩ノハ右ノモダケハ所々ニアツタモノデアルガ皆伐採サレ現存スル
分ノ際足利町村カモ知シスタノデ今ハ村ノ所有ニナク草久共有地
遠カラズ所藏古文書ニ明カデア
表紙
文久元年三月
木曾榎苗木植附取調書上帳
日光神領野州都賀郡下大久保村



トアル之ニヨリニ宮遷ノ由來カ明カト思フ
二宮遷寫生圖

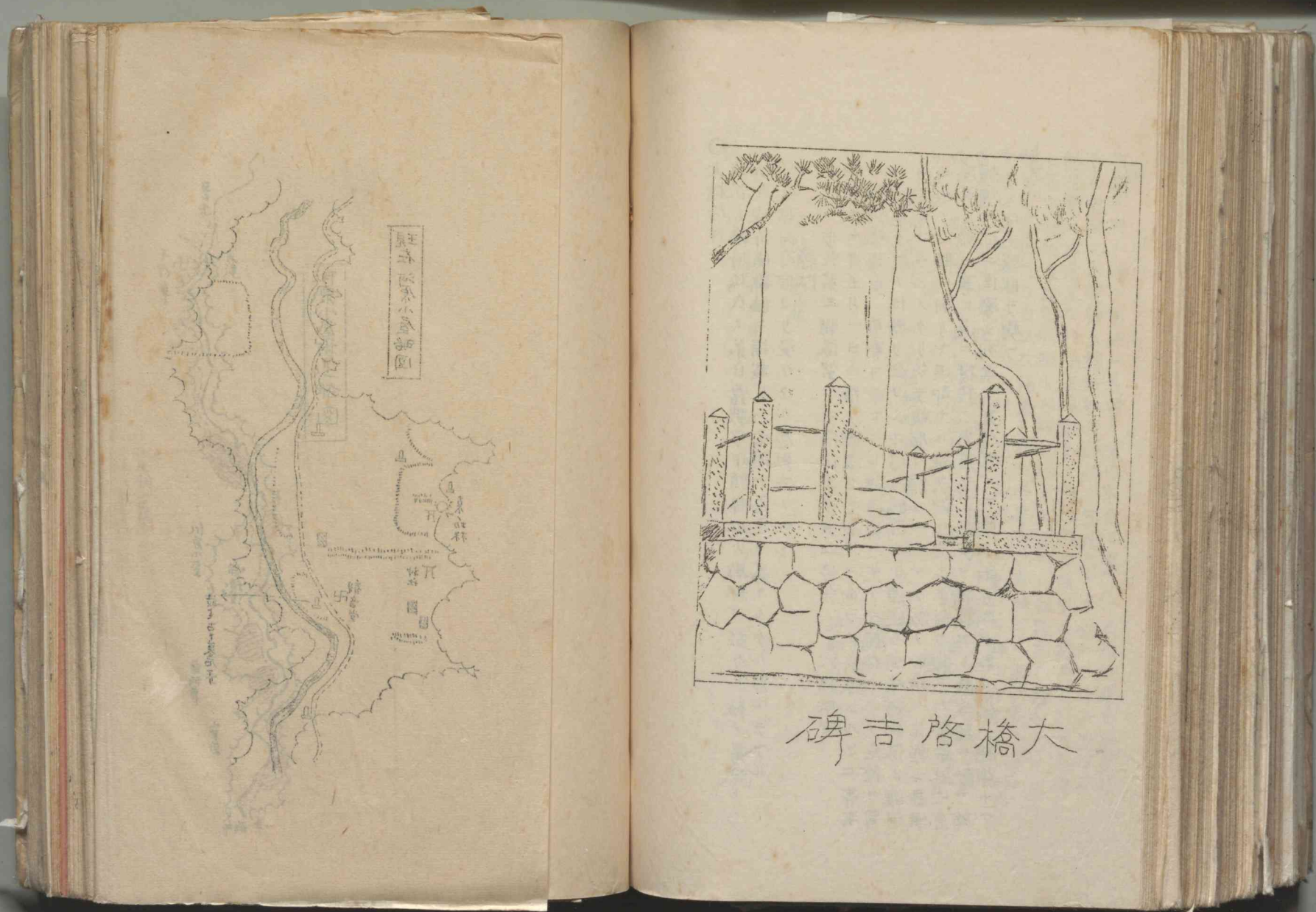
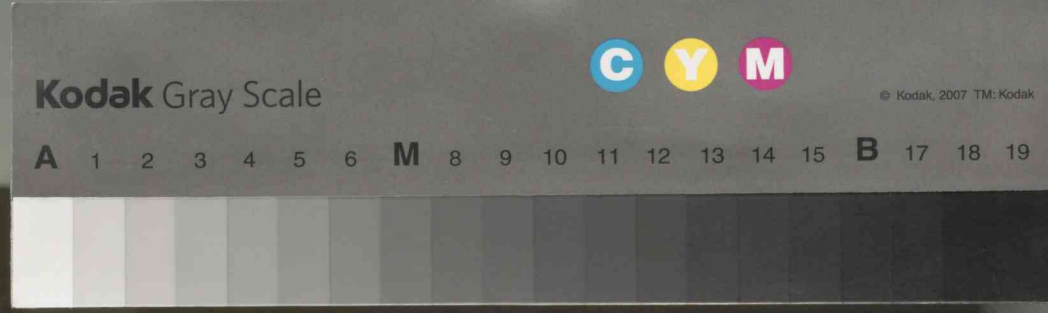




トアリ
 大橋啓吉
 龍花大橋峰松氏ノ第日露戦争中鴨綠江ノ戦闘ニ於ケル裸ノ勇士トシ
 テ當時新聞雜誌ニ掲載サレ全圖ニ勇名ヲ轟カシタル烈士デア
 感状
 歩兵第三聯隊第七中隊陸軍歩兵上等兵 大橋啓吉
 明治廿七年五月一日中隊ノ腰清北方高地ニ向ツテ前進スルヤ上等兵
 ハ露河徒渉兵ノ偵察ヲ余セラシ投身象ニ先テ渡過シ尙後續部隊ノ渡河
 シテ能ク其ノ任務ヲ全フシ中隊ヲ誘導シテ渡過シ尙後續部隊ノ渡河
 ヲ容易ナラシメタリ次テ被服ヲ纏フニ暇ナク敵ノ擧地ニ先頭シ馬溝
 西南ノ山頭ニ到リヤ退却セル敵ヲ反シテ捕獲セリ爾後續部隊ノ渡河
 進軍ノ銃ヲ奪ヒ遂ニ撲殺シ尙若ク敵ヲ捕獲セリ爾後續部隊ノ渡河
 蟻蟻附近ニ追撃シ列兵ノ死傷尋モニ際シ耐忍剛氣能ク衆ノ標準トナ
 レリ仍テ感状ヲ與フ

二宮 弥太郎様
 下アル之ハ拾苗下渡ニ対スル請書ノ下書デア
 係ル一切ハ明カデア
 文久元年 日光神領野州都賀郡下久保村
 百姓代 嘉右工門 三左工門 治郎左工門
 勿斯ル村ノ爲ニ相成以義種ニ厚取立ヲ蒙リ一同相助難有勸農罷
 在い處猶又木曾檜良種御取寄作仕立置種木トて村ニハ下渡往
 種極難之廣薄之土地猪鹿鳥獸多ク諸作種法兼致い場所へ村方永續
 之爲中植附良材繁茂致い様取立可被成以趣難村内談合仕い處
 惣持之山地九口口石續差支無之座以付奉願上以處則書之通
 今般作植附被成下置永久付村ノ爲ニ相成以同重有難仕合奉存い右
 苗之義ハ別彼之申趣意ニ付村内堅ク議定致シ置勝手ニ伐木致問敷
 候且ツ野火除ノ午当下川等無息丹誠可申い爲後日依而請書奉差上
 以上 文久元年 日光神領野州都賀郡下久保村 百姓代 嘉右工門 三左工門 治郎左工門

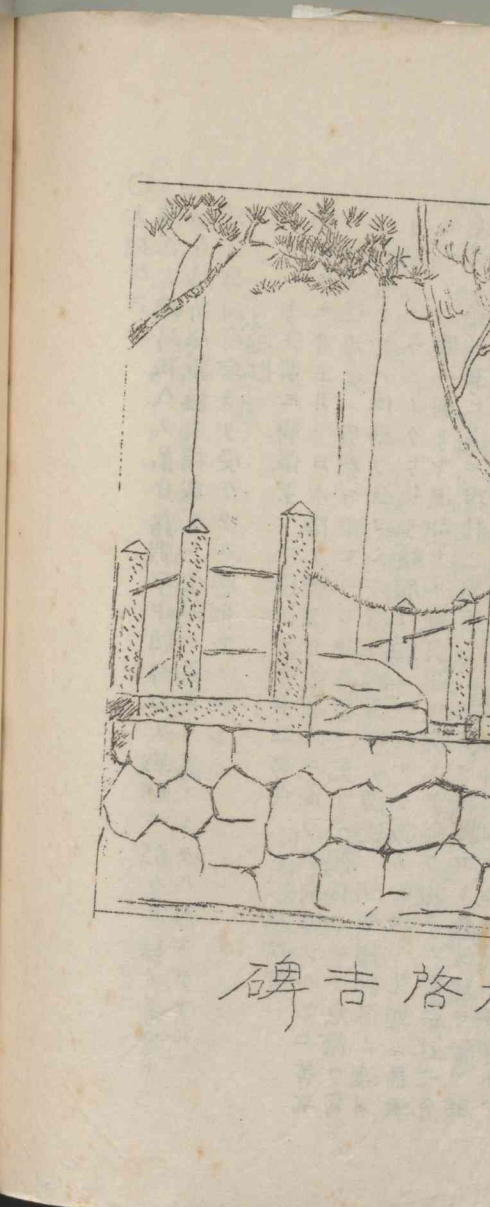
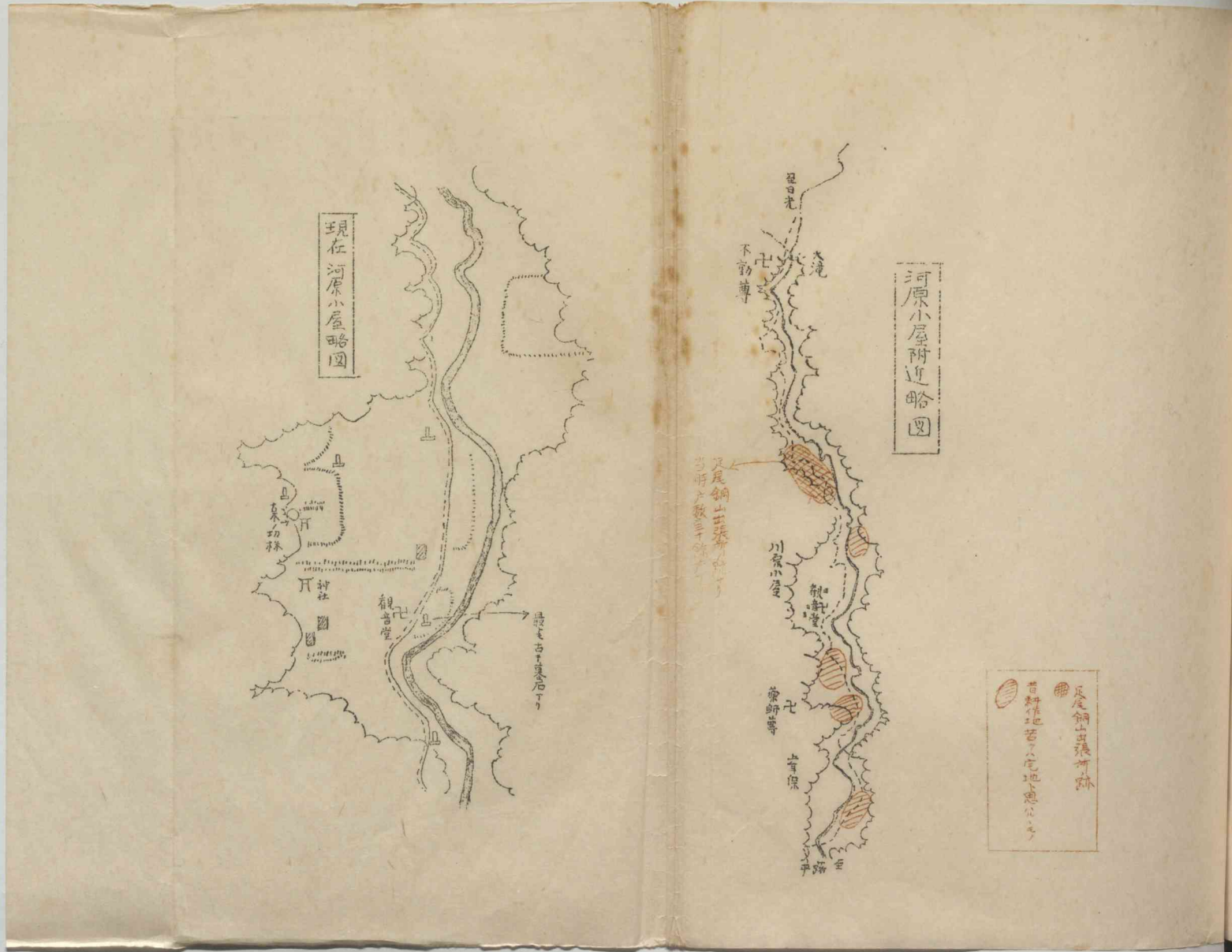


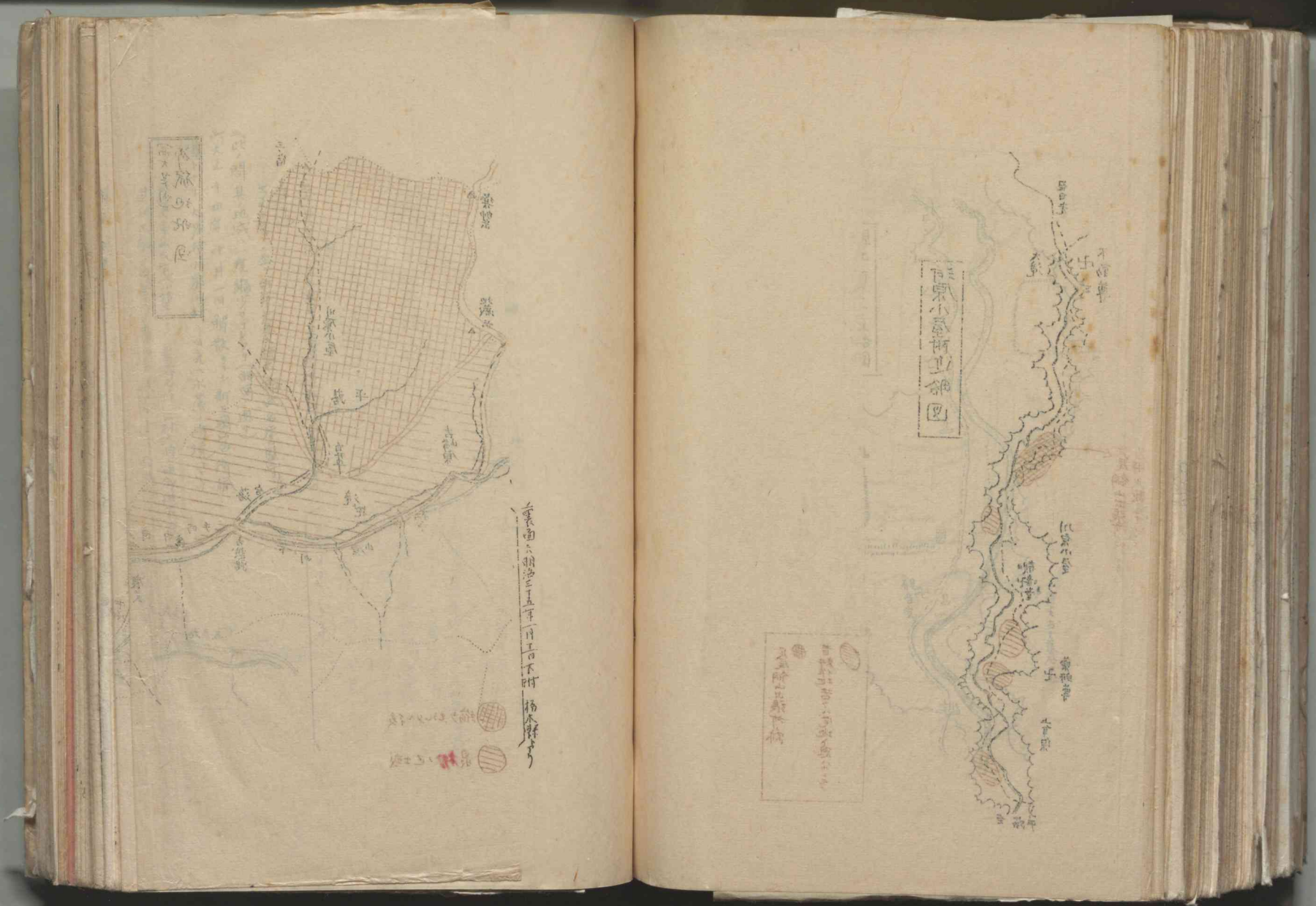
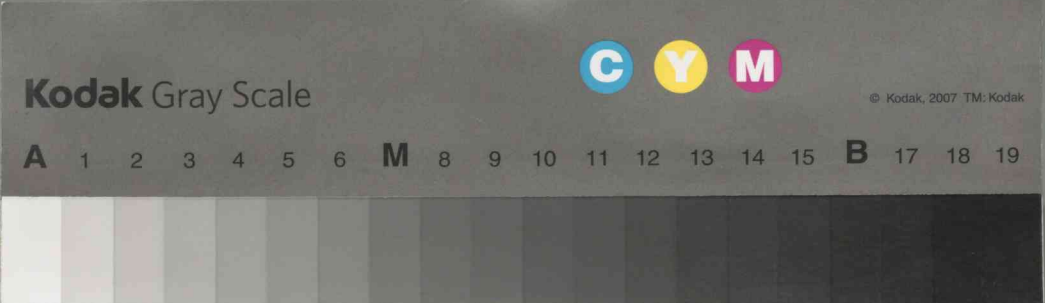


492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13



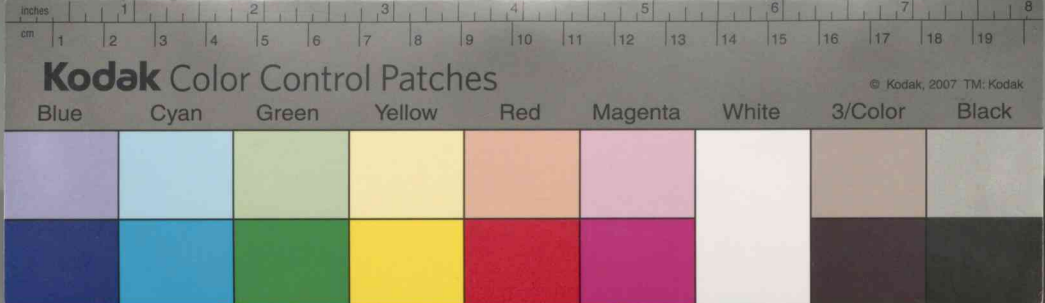




492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料

13





(西大芦町)
御嶽地誌

西大芦村 日光御嶽場トリカクコト

明治十七年三月日光御嶽地設置ニ當リ
大芦村ノ一部之ニ編入セラル
之ヲ見廻役ハ此時大員幸祇改ナリ(明治十九
年)

大正十年ニ至リ白干大員福太郎以多摩野守トシ
ニ此ノ間其地城ハ一度縮少セラレリ(特回ノ由リ)
大正十四年十月一日解散ニシテ新ニ國營御嶽
場トナリ大芦村小芦川村ハ日光御嶽ノ境トナリ

大員幸祇氏宅(菅平)ニハ東郷大村正村大村西御嶽東保
其他大官ノ肉親ノ者ナク多敷ナリ是ハ公儀ガ
御嶽場先回役直接大員ノ揮毫ニ由ルニナリ
得難ク珍寶トスベシ

大員福太郎以所持鑑札
第六號 西大芦村大員福太郎
上郡賢部要天行大守菅平久地蔵堂様
馬屋三八八番改草山
○御嶽場内小島御嶽免許鑑札
一免許期間ハ明治十五年十月十五日ヨリ
三十二年一月三十一日まで
一免許期限満期又ハ茂業ニ由リ
此鑑札速ニ返納スベシ

二葉面ニ明治十五年十月十日下附 福太郎
第六號 西大芦村大員福太郎

縮少後
最初已時

(西大芦町)
御嶽地誌

西大芦村 日光御嶽場トリカクコト

明治十七年三月日光御嶽地設置ニ當リ
大芦村ノ一部之ニ編入セラル
之ヲ見廻役ハ此時大員幸祇改ナリ(明治十九
年)

大正十年ニ至リ白干大員福太郎以多摩野守トシ
ニ此ノ間其地城ハ一度縮少セラレリ(特回ノ由リ)
大正十四年十月一日解散ニシテ新ニ國營御嶽
場トナリ大芦村小芦川村ハ日光御嶽ノ境トナリ

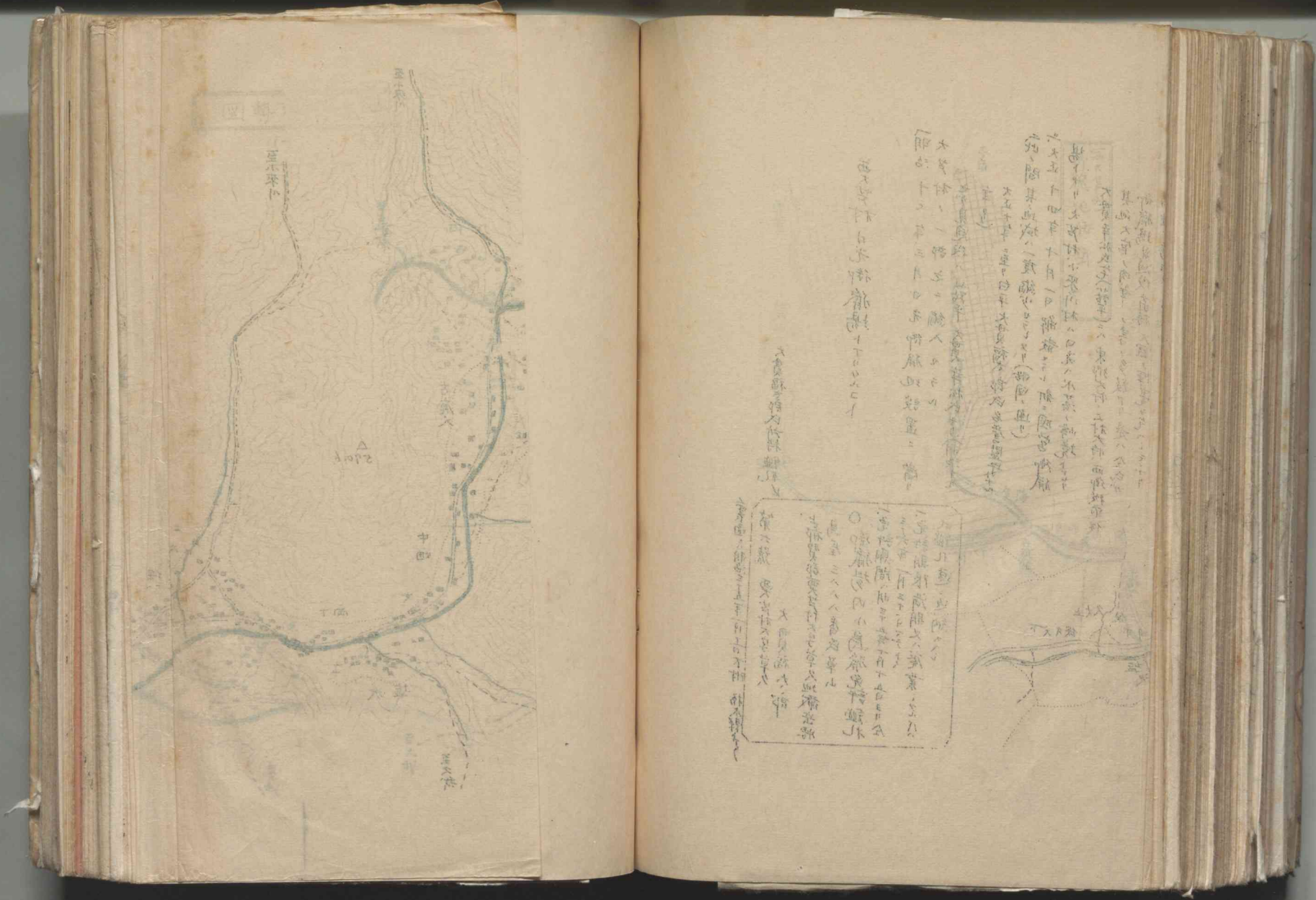
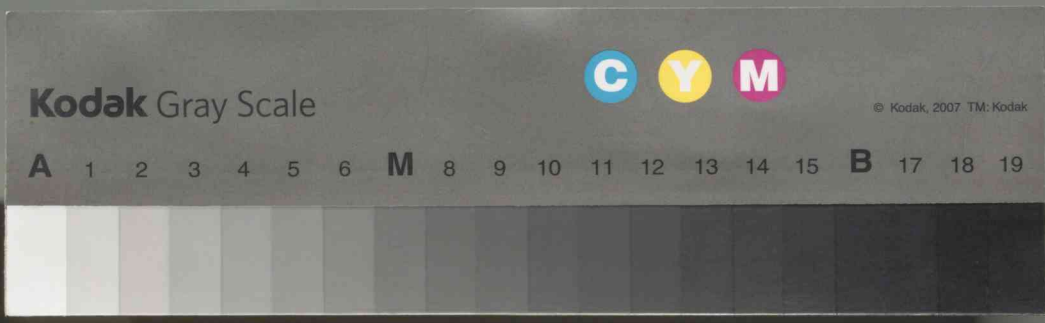
大員幸祇氏宅(菅平)ニハ東郷大村正村大村西御嶽東保
其他大官ノ肉親ノ者ナク多敷ナリ是ハ公儀ガ
御嶽場先回役直接大員ノ揮毫ニ由ルニナリ
得難ク珍寶トスベシ

大員福太郎以所持鑑札
第六號 西大芦村大員福太郎
上郡賢部要天行大守菅平久地蔵堂様
馬屋三八八番改草山
○御嶽場内小島御嶽免許鑑札
一免許期間ハ明治十五年十月十五日ヨリ
三十二年一月三十一日まで
一免許期限満期又ハ茂業ニ由リ
此鑑札速ニ返納スベシ

二葉面ニ明治十五年十月十日下附 福太郎
第六號 西大芦村大員福太郎

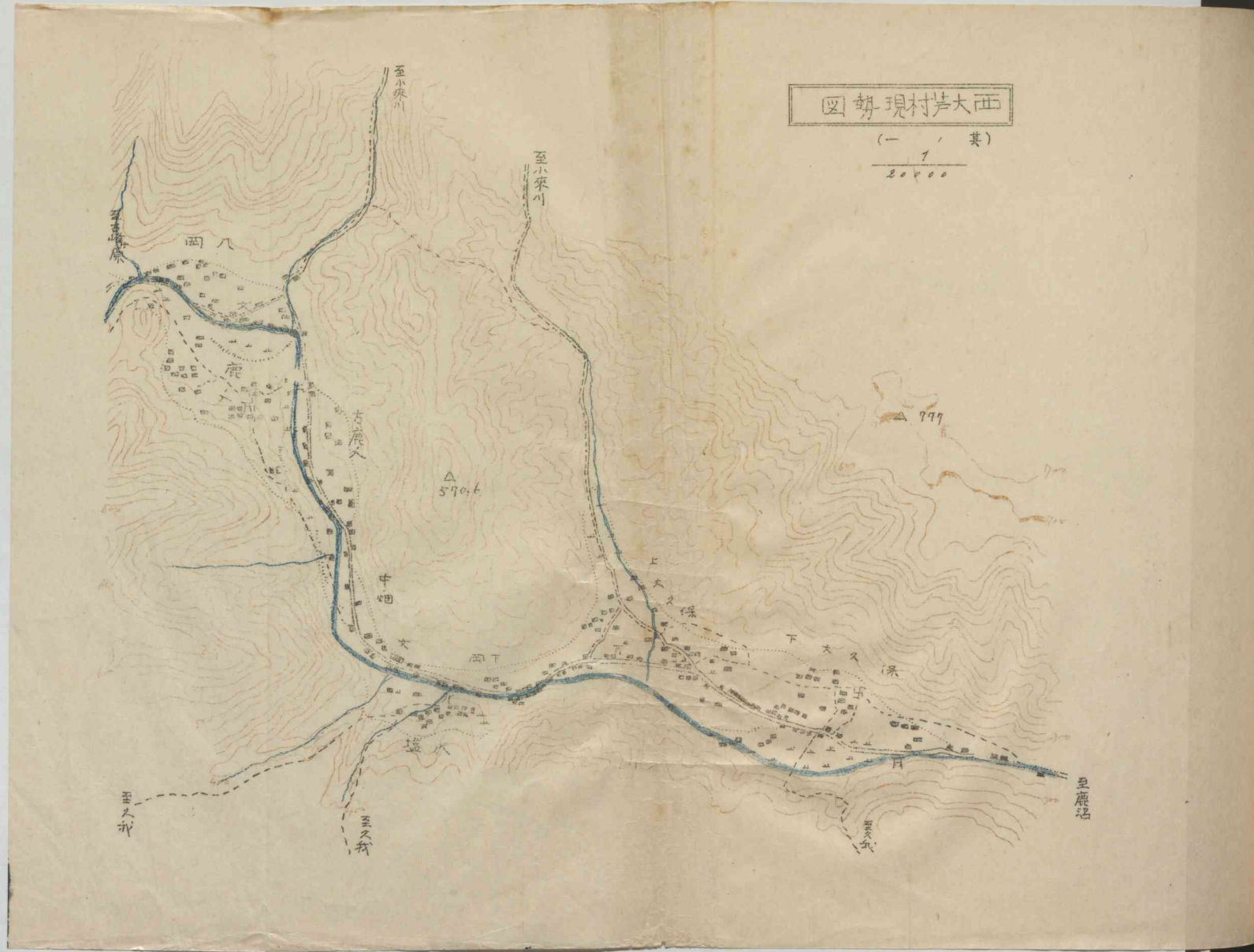
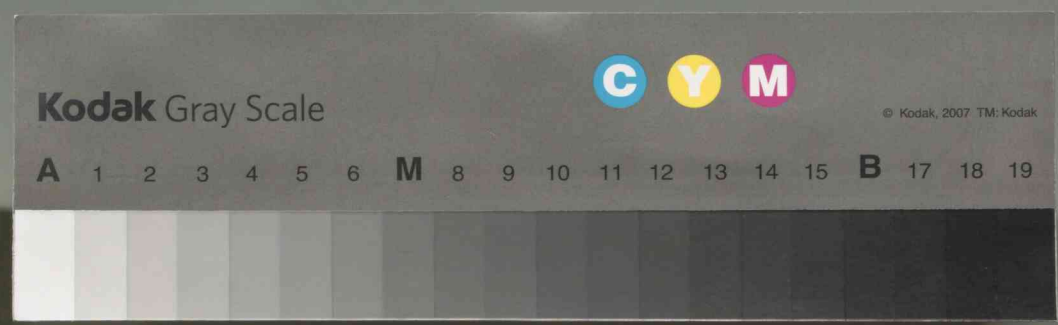
縮少後
最初已時





492 西大芦地区 西大芦小学校所蔵資料





Handwritten notes in Japanese, including a large rectangular box containing a list of names and descriptions. The text is written in vertical columns.

